

## I はじめに

宮崎県立美術館では、「郷土出身作家及び本県にゆかりのある作品」「わが国の美術の流れを展望するにふさわしい作品」「海外のすぐれた作品」の3つの柱を収集方針として、これまで作品の収集にあたってきた。2022(令和4)年度における当館の収蔵作品は、県立博物館(後の県総合博物館)時代からの収集も含め約4,200点であるが、その中でも、宮崎県出身の画家である瑛九を収集の核としており、作品は油彩やフォト・デッサンなど983点を所蔵している。その他、資料としてスケッチブックや後刷りの版画集、銅版画の原版なども所蔵している。

当館での大規模な瑛九の作品展としては、1995(平成7)年に開館記念展として「魂の叙情詩 瑛九展」を単独開催、2011(平成23)年には埼玉県立近代美術館、うらわ美術館との共同開催で「生誕100年記念瑛九展」、2021(令和3)年には「生誕110年記念瑛九展 -Q.Ei 表現のつばさ-」を単独開催している。いずれの展覧会も、当館の収蔵作品を中心にしながら、他館所蔵作品や個人所蔵作品などを交え、さらに膨大な資料とともに瑛九の「人」と「作品」を紹介するものであった。それぞれの展覧会において、初めて美術館に展示される作品や資料もあり、観覧者の目に新たな瑛九像を示すことができた。

瑛九の没後、ほぼ毎年全国いずれかの地で、大規模ではなくとも瑛九の作品が展示された展覧会が開催されている。瑛九の活動が多岐にわたっているため個展ではないことが多いが、「点描」「絶筆」「前衛」「戦後」「写真」「版画」などのキーワードをもつ展覧会で出品されている。また、瑛九が影響を受けた「シュルレアリスム」でも関連していることがある。常設の「瑛九展示室」を設置している当館では、様々な視点をもって、瑛九を紹介・展示してきたが、本稿では、改めて瑛九の作品とアーカイヴ資料をもって、芸術と人を考えていきたい。

なお、本文中で画像が伴わない当館所蔵作品については、作品名の後にアルファベット(O=油彩、D=素描、P=版画、PH=フォト・デッサン等)と数字で分類番号を記載した。

## II 瑛九の作品と資料について

### 1 油彩の作品と道具

当館では油彩作品を718点所蔵している(2022年4月現在)。そのうち瑛九の作品は101点である。瑛九の油彩作品の中で現存するうち最も古い作品である1925(大正4)年の「秋の日曜日」(O-376)から、油彩の絶筆である1959(昭和34)年の「つばさ」(O-13)まで、すべての年代や作風を網羅しているわけではないが、瑛九の画業の中で最もこだわりの強かった油彩の作品がほぼ年代ごとに収集されている(巻末別表1参照)。ここでは、所蔵の作品について紹介していく。

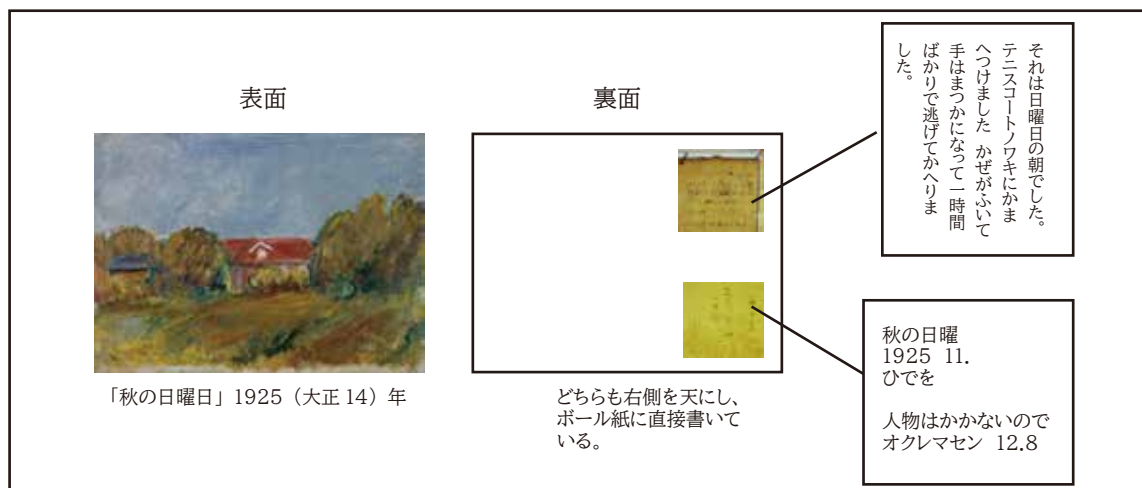
#### (1) 実験を繰り返すまで

##### ① 杉田秀夫時代

##### 「秋の日曜日」

『瑛九 評伝と作品』<sup>1</sup>の記述によれば、瑛九が自分の意思で受験し、通うこととなった日本美術学校で課題として描かれたものの1つで、実家に送ったものとされている。ボール紙に描かれたこの作品は裏面の文章によれば、テニスコートのある場所に画架等を据え付けて描いた作品ということになる。テニスコートとおぼしき場所は、草木も秋冬を感じる色で描かれ、中央奥の建物の赤を際立たせている。瑛九が14歳の頃の作品であり、素直に対象を描こうとしている様子が見えがえる。この作品と同様に宮崎の父に宛てて送った絵画があるとされているが、題名等は不明であり、所在は確認されていない。

<sup>1</sup> 愛知県の画家である山田光春が、瑛九の生涯と作品について調査・取材し、『眠りの理由』(瑛九の会発行)に順次発表していた。1969(昭和44)年それらを合本し、「瑛九伝」として冊子にしたものをさらに改訂して1976(昭和51)年に出版した評伝。(山田光春「瑛九 評伝と作品」、青龍洞、1976年、p65)



(図1)

「秋の日曜日」(図1)の裏書きでは「人物はかかない」としている瑛九だが、1930年代前半ごろまでの初期の作品では人物を描いた作品が多数確認されている。1926(大正15/昭和元年)年には竹久夢二風の女性を描いた「赤い帽子」(O-80)、1929(昭和4)年には「十三子姉」(埼玉県立近代美術館蔵)などを描いている。作品そのものは現存していないが、瑛九が21歳の頃の写真では、長姉の郡司君の家で描いた作品が写っており、姉をモデルにしたものや、大正モダンガールのような女性像を描いたものもあった。また、モデルのようにポーズをとってソファに座っている別の姉の写真や、着物姿の女性の絵を持った姉たちと写っている瑛九(本人は油彩のパレットを持っている)の写真も存在している。このころの作品の所在は明確ではないが、前述の評伝には水彩や油彩などを次々と燃やす瑛九の様子が書かれており、1939(昭和14)年の三番目の姉の笑に宛てた書簡には「去年の冬メチャメチャにやぶりすてた数々の画の事が思い出されます。」と書かれている。「君姉像」はキャンバスボードに姉を描いた作品であるが、裏面に幼児くらいの子供の絵が描いてある。産毛なのだろうが金髪にも見える坊主頭で目鼻立ちのはっきりした子供の半身像である。姉には子供がいたが、この作品が描かれた時期周辺に該当する子供はおらず、モデルは不明である。瑛九の描く人物のほとんどは身内をモデルにしたものであるが、1934(昭和9)年作の「ザメンホフ像」(O-134)は、瑛九が学んでいた人工の国際語であるエスペラントの創始者、ラザロ・ザメンホフを写真を元にして描いたものである。当時宮崎のエスペラント会では様々な画家に依頼してザメンホフ像を描いてもらっていたため、同様の構図で異なる作家の作品が存在している。<sup>2</sup>

## ② 「瑛九」時代

1936(昭和11)年2月に、フォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、本名の杉田秀夫から瑛九と名乗るようになって新たな活動をする事となった。フォト・デッサン作家として脚光を浴びた瑛九だったが、それ以降瑛九は「日本画壇に失恋した」(1936年7月17日付山田光春宛書簡)として体調を崩し、不眠症にかかってしまう。しかし、その間も絵画探求への情熱は失われず作品を制作し続ける。不安定な精神と肉体の状態を抱えた瑛九を、妹の杉など周囲は心配していたが、少しずつ快方へ向かっていった。

フォト・デッサン集『眠りの理由』刊行と同年に描いた「マッチの軌跡」(O-387)などは、それまでに描いたものとは異なる描き方をしている。描く内容が具象ではなく抽象的なものになり、描画に際しペインティングナイフや筆以外のものを使用している。絵具のチューブを筆のように使い、直接キャンバスに点や線を描いたり、マッチ箱の外カバーの縁に絵具を付け、スタンプのようにキャンバスに跡を付けたりしている。「作品-E」(O-390)ではスタンピングの他に綿などの素材を貼り付けている。「作品-F」(O-391)では手に絵具を付けて押しつけた、ペインティングナイフで絵具層にひっかき跡を残したりしている。いずれもキャンバスを塗りつぶすことなく、余白はそのまま白い地塗りの状態であった。

<sup>2</sup> 宮崎エスペラント会では、ザメンホフの肖像画を地元の画家などに依頼し、会で行う催しの際にエスペラントの旗などとともに掲示したり、頒布をしたりしていた。2010(平成22)年に筆者が行った調査では、宮崎エスペラント会の保有する資料の中に別の作者によるザメンホフ像が確認されている。

この時期に限ったことではないが作品名について明確でないものもある。山田光春が作成した瑛九油彩作品品集を見ると、前年にも同じような手法の作品を制作しており、その作品のタイトルは「作品 A」となっている。描き方はやや異なるが「作品 B」や「作品 C」もある。となると、A～F までのシリーズであるように思われる。前述の油彩作品集では「マッチの軌跡(作品 D)」という題名で記載してある。この作品は展覧会によって「作品 D」(「瑛九遺作展」1970 年、北九州市立八幡美術館)、「作品 A」(「瑛九とデモクラート展」1973 年、梅田近代美術館)、「マッチの軌跡(作品 D)」(「瑛九とその周辺」1986 年、埼玉県立近代美術館)と記載されている。また、「瑛九とデモクラート展」カタログや「みづゑ」(No.766、1968 年 11 月号)に掲載の図版は上下逆になっていた。サインも裏書きもない場合の判断では、額装されていれば展示の際に天地がわかるが、図版のみでは判断が難しかったのではないかと。山田作成の油彩作品集では、タイトルが不明のものについて「題不明」と記されているものもあるが、山田が便宜上つけたものには「(仮)」と記載されている。題名については、瑛九が自ら個展で出品したものについては瑛九が付けているものであると確信できるが、晩年の点描など、タイトルが付けられないまま人の手に渡り、所蔵者が後に付けたものもある。これは油彩に限ったことではないので、個展などの記録をしっかりと精査していかなければならないものの、図版も同時に掲載されていない限り特定出来ず、判別が難しいことの方が多い。

戦争を境にして、瑛九は一旦印象派から始めるとして、印象派風の風景画などを描いていたが、再び作風は変化していく。1950 年代に入ってから、油彩では構成的な作品が増えてくる。曲線や直線で画面を分割して人や鳥などが色分けされて描かれ、背景などの奥行きが消えている。「花の散歩」(O-502)では平面構成的に描かれた絵を色や形が透けるように薄く白い絵具で上塗りし、ところどころ引っ搔いて下地の色を見せ、細い線を描いたり、色面を追加したりして制作している。1950 年代前半は、油彩の他にも本格的に始めた銅版画や制作を再開したフォト・デッサンなどもあり、制作活動だけでも多大なる時間を要するものであったが、同時に美術団体の活動や転居などもあり、最も多忙で精力的な時期であった。油彩は 1954 年までに 70 点以上を制作している。1951(昭和 26)年頃作の油彩「作品」(O-7)は、細かく描き分けられているが、平面構成的なものではなく、複数の人や建物などが組み合わせられ、どちらかというと同時期の銅版画によくあるような絵柄である。しかしながら、銅版画には元の絵となるような作品は確認されていない。1950 年代後半はますます作品制作に熱中するようになり、1956～58(昭和 31～33)年にはリトグラフ、銅版画、フォト・デッサン、油彩等を盛んに制作している。同じようなテーマで技法を変えて表現することもあり、点描の片鱗が油彩以外でも確認できる。

## (2) 点描へ

1957(昭和 32)年は瑛九にとって一つの転機の年である。デモクラート美術家協会の解散をきっかけに団体活動をやめ、自身の制作に集中できるようになった。かなりの時間を制作に費やし、油彩にも再び変化が表れてくる。色面を構成するような描き方から、様々な大きさの円が画面を埋め尽くすようになるのである。それは「月」(O-14)のように様々な円い形を模様のように配置して描いたり、「空の目」(O-428)のように複数の円に囲まれた小さな円が、星のようにちりばめられていたりしている。この年は、画像で確認されているものでも 90 点近くの作品を制作しており、そのほとんどが円で描かれているのである。ある意味では微細な点の作品と言えるエアブラシで絵具の粒子を画面に吹き付ける作品が増えたのもこの時期である。「月」ではエアブラシで線を描き足しているような使い方だが、「愛の歌」(O-268)では型紙を使い、フォト・デッサン制作のような使い方、型紙の配置やエアブラシを吹き付ける順番などを変えて制作している。同様にフォト・デッサンと共通の型紙が使用されている「森の中」(O-385)や、「題不明」(O-392)、「ビルの窓」(O-11)など型紙とエアブラシで描いた作品がある。しかしながら、エアブラシによる油彩の作品は翌年には作例が確認されていない。おそらく絵筆をエアブラシに置き換えた作品は、いくらでも作ることができ、制作スピードも速いと考えるが、瑛九の中でそれが「是」となることはなかったのではないかとと思われる。自分だけの表現を求めるのであれば、誰がやっても同じような表現が出来るものでは満足できなかったのではないかと。



1958(昭和33)年に入ると、円の形は「丸のあそび」(O-12)に見られるおはじき型のものから、「飛びちる花びら」(O-267)のような輪郭が崩れかけたものになっていく。さらに形が曖昧になり「題不明」(O-394)に見られる筆がキャンバスに付いたときの形が点となったものになっていく。油彩以外の技法による作品の制作は、頻度が少なくなりつつも、版画などでも点描の作品を試すように制作している。1959(昭和34)年には油彩に集中し、点描作品を量産していく。瑛九にとって点描は到達点であったわけではない。しかしようやくつかんだ自分なりの表現のきっかけであった。大きな画面の絵を描くことは、深化につながることに信じ、情熱と体力の持てる限りを尽くしおびたしい点を描いていく。最晩年の「雲」(O-345)、「田園 B」(O-509)や絶筆の「つばさ」のように、微細な点の浮遊や放散、集結などが感じられることで、瑛九の描いていたのは空気や空間そのものであったかのように思えるのである。

瑛九の点描の表現は、1960(昭和35)年に瑛九が逝去したことで、その後の発展の希望を残したまま終わりを告げることとなった。

### (3) 描画道具について

当館が所蔵している瑛九の描画道具は、油彩道具箱(絵具入り)、筆類、パレット、油壺、オイル瓶、ペインティングナイフ、絵具箱のほか、フォト・デッサンなどでも使用したエアブラシのスプレーガンセットや金網等である。これらはすべてアトリエにあったものである。既成の道具箱に、自作のものを含むパレットは数種ある(図2)。どれも絵具が付いたまま残されているが、パレットによって付いている絵具の傾向が違って興味深い。赤、青、黄、緑など並べて使用しているものもあれば、白、赤、黄に黒(または茶)など限られた色のみのパレットもある。また、晩年の微細な点を打つのに使用したであろう筆は、60~70本ほどあり、ほとんどが細いものである。ホルベイン製の3号から8号サイズ、ナムラ製の1号から14号サイズなどあるが、すべて油彩用とは限らず、中には彩色筆のようなものや面相筆も混ざっている。絵具については、チューブ自体が油で汚れており、ラベル等の判別がつかないものもあるが、ホルベインやクサカバなどのメーカーのものを使用している。色名が識別できるものとしては、バートン・アンバーやビリディアン、イエロー・ディープなどがある。これらは使用途中であるが、青系と黒の絵具チューブはほぼ残っていない。最晩年の絶筆「つばさ」は黄色系の点だけではなく、薄く溶いた黒や青系の色の点、ピンクベージュのような点なども多く見られる。同時期の「田園 B」などは、青が主体で黄色系はベース、朱色、白などをアクセントで使用している。



(図2) 瑛九の油彩道具

## 2 フォト・デッサンの作品と型紙、道具等資料

現在当館で所蔵している瑛九のフォト・デッサン及びフォトコラージュは、総数 170 点である（別表 2）。そのうち瑛九展開催を記念してリプリントされた作品の 10 点、「瑛九と仲間たち」でプリントされた 1 点は、後刷りの銅版画と同じく瑛九の没後に制作されたものである。また、フォト・デッサン集『眠りの理由』（全 10 点）に含まれる 9 点と表紙の 1 点、同柄の重複作品 1 点を所蔵している。フォト・デッサン集『眠りの理由』に収録している作品のうち、1 点は「フォトグラム」として 1936（昭和 11）年の「フォトタイムス」9 月号に掲載されている。おそらくこちらが原本であろう。『眠りの理由』の作品やフォト・デッサン集『真昼の夢』の 9 点は、いわばデュープしたものとなる。瑛九の生前に制作されたものは 159 点。完全に瑛九の手によるオリジナルといえるものは 139 点である。

### (1) 型紙について

当館所蔵の型紙は全部で 13 点あるが、そのほとんどはパーツではなく、印画紙全体を覆うようなサイズのものである。しかし単独で使用したものはなく、別の型紙を組み合わせたり、針金やレースなどを組み合わせたりして使用している。所蔵作品の型紙として使用されているものは 4 点である。作ったフォト・デッサンを切り抜いて型紙にしているものが 9 点あり、そのうちの 1 組（図 3 参照）は、1 枚のフォト・デッサンを切り抜いた形と切り抜かれた台紙であり、いずれも型紙として使用された。2010（平成 22）年に北九州市立美術館に収蔵されている型紙 474 点を調査し、撮影を行った（型紙によっては両面とも撮影した）。当館所蔵及び、北九州市立美術館所蔵、「生誕 100 年記念瑛九展」企画の際に調査した埼玉県立近代美術館所蔵の型紙を合わせると、おおよそ 650 枚になる。この他画廊や個人に所蔵されている型紙もあるため、型紙だけでもかなりの点数になる。



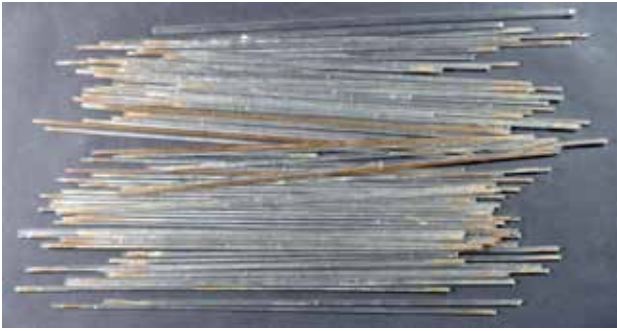
（図3）

「瑛九 評伝と作品」によると、1936（昭和 11）年に瑛九が長谷川三郎らに見せたのは、スーツケースに詰め込まれた「百点ほどの印画紙による作品」である。その中から選りすぐったものをフォト・デッサン集『眠りの理由』として発表しているのだが、これらは宮崎市の府味田写真館で制作したものである。このことは、瑛九を特集した番組「自由こそ～美の革命家／その名は瑛九」（1996 年 4 月 20 日放送 制作：UMK テレビ宮崎）でのインタビューで府味田夫人が証言している。暗室などを持たなかった瑛九は、近所の府味田写真館の暗室を借りて作業をしていた。1940 年代の作品はほとんど現存しておらず、数はわかっていない。1950 年代に入りフォト・デッサン制作を再開した後も、まとまった作品の記録としては開催した個展やアメリカに送ったときの記録のみである。試作なのか、あるいは失敗とみなしたからなのか、型紙になってしまったフォト・デッサンもかなりの数になるので実質的な制作数は判明していない。現像自体はそんなに時間がかかるものではないので、夢中で制作すればあっという間に多くの作品が出来てしまう。また、透過性のある型紙としてセロハンに描画してあるものがあるが、型紙として使用した後も描き加えることでセロハンデッサンとして収蔵している作品もある。

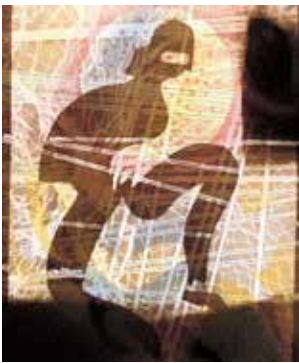


## (2) 作品と道具について

所蔵している資料の中には型紙以外にも瑛九のフォト・デッサン関連資料として道具や薬品類がある。また、作業用の道具を型紙のように使用していることもある。ここでは、作品と使用している道具について考えてみる。



(図4) 直径4ミリほどの細いガラス棒



(図5) 「女」1952年



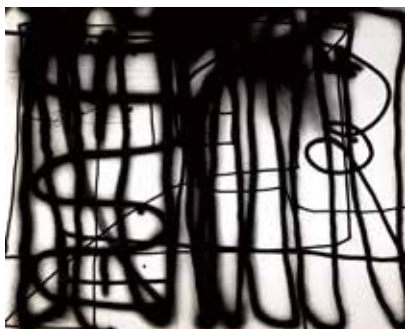
(図6) 「夕暮れ」制作年不明



(図7) 瑛九自作の懐中電灯カバー使用例



(図8) ナショナル製のペンライト3種

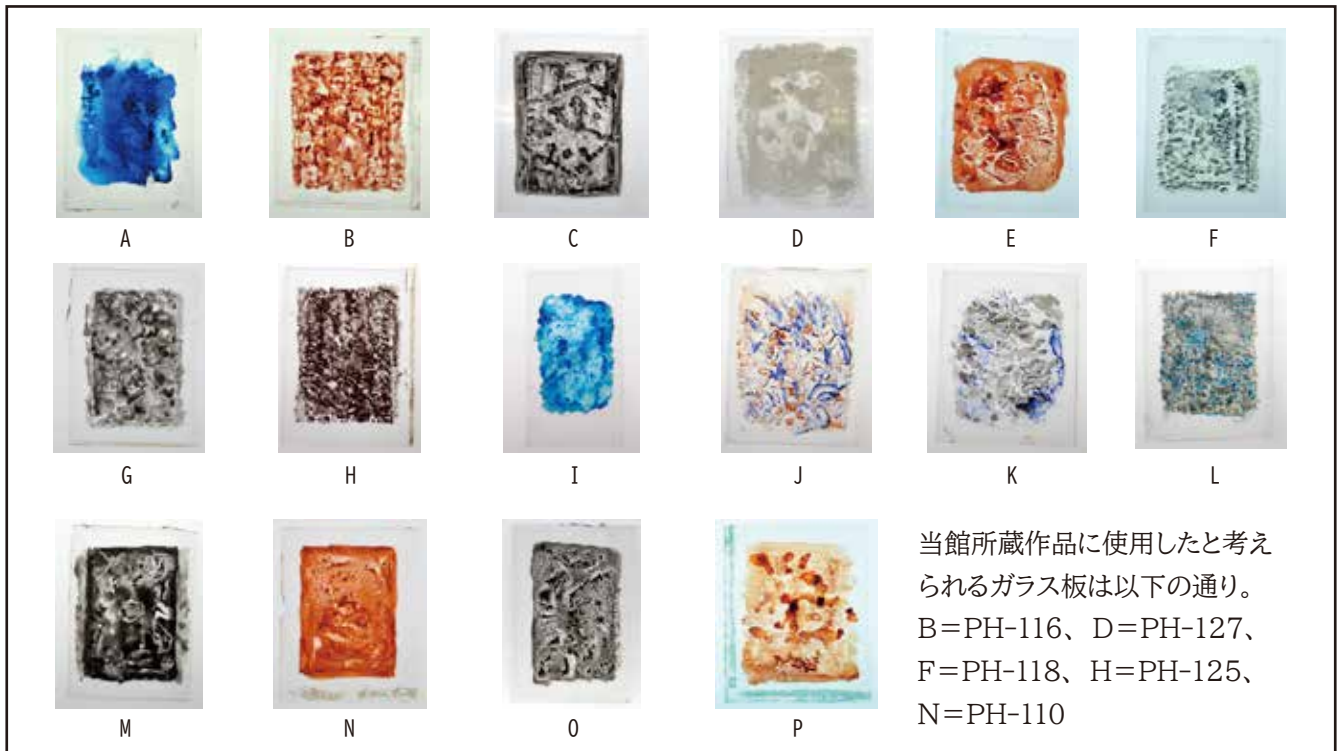


(図9) 「人々」1951年

フォト・デッサン制作で使用していた道具の一つとしてガラス棒がある。本来、薬品などを混ぜるなどの用途であるが(実際に薬剤などが付着してできたのであろう変色した部分がある)瑛九は、透過性のある型紙の代わりとして使用している。透明な棒状のものに、上から光を当てると、中央に光が集中するため両端の白い縞状の影が印画紙に投影される。棒を並べたり、重ねたりすることでより複雑なマチエールを作り出すことができるようになる。ガラス棒(図4)は太さが2種類ほどあり、作品に応じて使い分けているようである。「夕暮れ」(制作年不明)(図6)のように人や動物などの形を切り抜いた型紙と組み合わせているときには、地面などを表現するような使い方をしている。

フォト・デッサン制作の要となるのは、光源にあると考える。型紙や、ガラス棒などの形を印画紙に焼き付ける作業は、最も工夫がいることである。焼き付けるのに必要な光をどのように当てるかで、作品のできあがりが変わってくる。瑛九は暗室を持たなかったため、埼玉県のアトリエでの制作は、夜間辺りが真っ暗になってから、庭で作業をしたり、部屋の電気を消したりして行っていた。複写機や引き伸ばし機もあるが、光を自在に当てるには懐中電灯が適していたのであろう。懐中電灯をそのまま使用することもあったが、光の調節を行うため、懐中電灯にかぶせて光量を絞るカバー(図7)を作っていた。また、ペンライト(図8)も活用しているが、もっと小さな光が出るように加工して3種類作り、「人々」(1951年)(図9)のように、印画紙に直接光で線を描いている。「人々」は細いテグスと思われる透明の糸状のもの(画面左上に配置)や細かい網目のチュールレースのような布状のものを印画紙に置き、その上から光で線を描いている。当時の一般的な懐中電灯では、印画紙に近づけると2,3重の光の輪が出来る。しかしペンライトやカバーを付けた懐中電灯の照射では、その輪は見え、小さな点のようにしか見えないので、文字通りペンのように動かせば、光が線となって印画紙に焼き付くことになる。照射の時点では印画紙は真っ白であるため、現像するまでどうなるかは瑛九の頭の中にあるだけである。

さらに「散歩」(PH-46)や「遊園地」(PH-4)のように、ガラス乾板やフィルムの画像を加工したものを印画紙に投影して下地とし、型紙を重ねて制作しているフォト・デッサンもあり、ほかにもガラス乾板と同等サイズのガラス板に、絵具で直接描いて作ったものがある。(図 10)の A ~ P は当館所蔵のガラス板であるが、特徴的なのは写真のガラス乾板の加工時には墨もしくは絵具の黒を使用していたが、この直接描画では青、茶など色を変えているところである。色によって光の透過量が違うことを生かそうとしたのか、塗り方も薄く透けるようなものや濃くはっきりとした点や線のものなどがある。セロハンなどのフィルム状のものに描いたときには緑なども使っているが、作品では、ほぼ白い線になっている。ガラス板は点描のものが多く、油彩で点描を描き始めた時期に版画や水彩などでも同じような点描を制作しているため、これらもその制作時期に近いものと考えられる。同じような作風の「水の時間」(PH-181)は 1958 (昭和 33)年作だが、その他の作品でこのガラス板を使用したと思われるものは制作年が不明である。



(図 10)



(図 11) 「多摩園」(PH-187) 裏面(左)と人物像のスケッチ  
足下の拡大図(右) 円の箇所に赤い顔料が付着。



(図 12)  
部分拡大(円内が白抜け等)



(図 13) 印画紙の上からの描画

瑛九がフォト・デッサンを制作し始めたのは 1930 年代であるが、その時代の主流はモノクロのフィルム及び印画紙であった。1950 年代に入ると、カラーフィルムが流通するようになるが、印画紙を含めまだ試作段階のものもあり、瑛九が自在に使えるものではなかった。したがって、フォト・デッサンは基本的にはモノクロだが、スパッタリングなどで着色をしている作品がある。また、赤い印画紙のフォト・デッサンが 2 点ある。赤い紙にエマルジョンを塗布し、印画紙として使用したものかと考えたが、(図 11)のように裏面は茶変しているものの元は白い紙であった。ところどころ赤い顔料が付いている状態である。作品の表面を観察しても、一般的な印画紙に現像後赤を吹き付けたような跡はなく、(図 12)のように白く色が抜けている部分があり、その上から線が描かれている。以上のことから、白い紙を赤く着色した後エマルジョンを塗布して印画紙を自作したのではないかと考える。すべてが印画紙に投影後現像されたものというのではなく、ガラス乾板を加工した後印画紙に投影して現像を行い、その後(図 13)のようにペンや鉛筆などで描線を加えてできあがっている。



### (3) オリジナルプリントと複製

1936(昭和 11)年に発行した瑛九初のフォト・デッサン集『眠りの理由』は限定 40 部、1950(昭和 25)年のフォト・デッサン集『真昼の夢』は限定 100 部作成している。印画紙に直接型紙や物を置き、感光させて制作するフォト・デッサンは基本的に 1 枚しか制作できない。制作過程で型紙などをずらしていくものもあり、版画のように複数枚できるわけではない。したがって、フォト・デッサン集を作成する場合は、オリジナルの作品を撮影したものを元版として複製していくことになる。当館には、複製に使用したガラス乾板と(図 14)のプリンター(焼付機)<sup>3</sup>が収蔵されている。ガラス乾板は『真昼の夢』のものであり、密着焼きの状態で複製ができるようになっている。いずれにしてもオリジナルが存在し、『真昼の夢』についてはオリジナルの作品が個人所蔵などで確認されている。(図 15)の「散歩」(個人蔵)<sup>4</sup>はフォト・デッサン集のものと同柄である。また、(図 16)(図 17)の 2 点ともオリジナルに比べて上下左右が一部トリミングされている。これはガラス乾板のピン留め部分を除去するためと思われる。現時点では作品集のエディションごとに異なっているのかは不明である。



(図 14) 焼付機 (左) ガラス版等設置部 (右)



(図 15)



(図 16)

(図 17)

(図 16)の「廻轉盤」と(図 17)の「会話」は同じ型紙を用いているが、表裏が逆に使用されている。また背景も異なる処理である。「会話」のオリジナルと思われる作品は、毎日グラフの 1952(昭和 27)年 11 月 10 日号に「ピアノシモ」という題名で掲載されている。

<sup>3</sup> 箱の中にセーフライト同様の茶電球(赤色電球)及び白色電球が入っており、ネガと印画紙を重ねて蓋を押さえると、自動的に茶電球が消え、白色電球が点灯し露光するようになっている装置。

<sup>4</sup> 2011 年開催の「生誕 100 年記念瑛九展」にて展示。なお、この作品と同じ型紙を使用したうらわ美術館所蔵の作品も展示していた。型紙は同じだが背景の異なる作品であり、共通した型紙は北九州市立美術館が所蔵している。

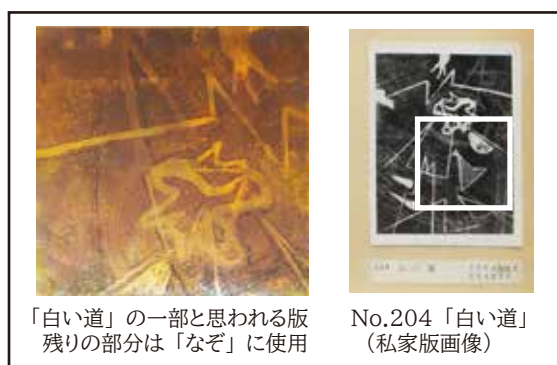


### 3 瑛九の銅版画と原版について

#### (1) 銅版画の原版の存在

銅版画の原版は、限定部数分を刷ると、傷を入れるなどして廃版処理することが多い。版が最適な状態を保っていれば、いくらでも刷ることはできるであろうが、実際にはプレス機にかけることが続けば、薄く潰れたり反ったりと版はそれなりに傷んでくる。また、作者のあずかり知らぬところで増刷されれば不利益になる。そのような事情もあり、銅版画の原版が存在することはあまり一般的ではない。しかし瑛九の場合は、ミヤ子夫人が彼の没後も大切に保管しており、ほとんどが残っていた。現在大半の原版は当館が所蔵しているが、おそらく何枚かは個人などに渡っているのではないかと推察できる(アトリエ資料として収蔵されたエッチングプレス機の中から原版が出てきたこともある)。したがって、総数として何種類の銅版画を瑛九が制作したのか、正確な数はわかっていない。しかしながら、原版からおおよその予測を立てることはできる。

当館には瑛九関連の銅版が 285 点ある。そのうち、作者が瑛九ではないと思われるものが 7<sup>5</sup> 点ある。したがって、瑛九作と思われる原版は 278 点であるが、そのうち作品として成立していると思われる原版は 274 点あり、大半は後刷りの版画集に使用されたものである。両面に版があり、片面は南天子画廊が、もう片面は林グラフィックプレスが後刷りの作品集に使用しているものや、特装版の画集封入用に使用された作品もある。両面ともに作品として使用されているのは 74 点で、片面のみが作品として成立しているものは 200 点ある。両面に絵柄はあるものの、未腐食のままであったり、腐食が中途半端で終了していたり、大判サイズの別の作品の原版を切って再利用しているため、裏面に絵柄があっても作品になっていないものもある(図 18)。また片面には別の作品の原版を切り分けた一部の絵柄、もう片面には何も描かれていないままのものが 4 点ある(図 19)。



(図 18)



(図 19)



(図 20)

私家版<sup>6</sup>(別表3)に掲載してある 1953 年に制作した No.101「ゴーストツブ」(限定3部)の原版を、翌年さらに加筆して No.145「シグナル A」(限定 2 部)を制作している(図 20)。その原版はカットしており、一部は裏面を他

<sup>5</sup> ミヤ子夫人より寄贈された『EROTICA』の原版と同梱されていたもの。瑛九が講習会等で教えた人たちのものではないかとの記載あり。そのほとんどが試作のようで完成品ではない。

<sup>6</sup> ミヤ子夫人が 1962 年に作成した私家版の銅版画写真集(限定 10 部との記載あり・掲載作品数 229 点)アルバムには m.sugita とサインがある。瑛九とは実質的に籍を入れていなかったミヤ子夫人は本来、谷口姓であるが、当時は名前に漢字をあて、杉田都と表記することが多かった。

の版に使用している。題不明の板は片面に浅い傷しかついていない。「ゴーストツプ」(のちの「シグナル A」)の原版は瑛九によって切られているため、後刷りには含まれていない。



(図 21)

また、印刷はできる状態であるものの、何らかの形に切り取った版など、私家版や後刷りの目録に掲載されていない版もある。未腐食(というよりも腐食が浅い)のものや、もともとは別の大きな版画の原版を切って使っているものもあり、作品としては存在していないと思われるものがある。カタログ掲載の資料(図 21 の各資料番号は、後刷りの版画集『SCALE』IVに掲載された画像に付記された番号、p.10)として刷られているものもあるが、作品カタログ掲載分の画像しかなく、版画作品としては収録されていない。

## (2) 瑛九の銅版画と石版画の制作数

瑛九は油彩やフォト・デッサンなど様々なジャンルに挑戦しているが、版画家としての側面ももっている。版画の中で瑛九が主に制作していたのは銅版画と石版画である。銅版画を集中して制作し始めたのは 1950 年代初頭からで、石版画は1956～1958(昭和 31～33)年に集中的に制作している。しかしながら、まとまった作品集などは出しておらず、それぞれの制作数も判明していない。

石版画については、木水育男が瑛九から 143 枚の石版画を購入<sup>7</sup>しているが、その時の書簡によると瑛九本人がまとめたところ、1 枚不明とのことで、1958(昭和 33)年の 4 月の時点での石版画の総数は 144 枚となっている。1974(昭和 49)年に原田勇と堀栄治が編集し、瑛九の会が出版した『石版画総目録』では 158 点である。これは本間美術館が撮影した石版画写真集<sup>8</sup>(図 22)が基礎資料としてあげられ、その後の調査で「実験のとき」として、エッチングプレス機で刷られた 1951(昭和 26)年作の 6 点を加えたものが総数である。しかしながら当館所蔵の作品にはエディションが異なる作品も存在しており、目録の部数と合わないものや未掲載の作品もあった。銅版画は原版が残っているが、石版画については石版、ジंक板ともに原版がほとんど残っておらず、瑛九がアトリエで使用していたリトプレス機も瑛九の没後、他の人に引き取られており、現在は所在が分からず現物を見ることはできない。また、

<sup>7</sup> 1958 年 4 月 18 日付木水宛瑛九書簡より。瑛九から福井県の木水育男に宛てた書簡集、「瑛九からの手紙」(2000年、瑛九美術館・木水クニオ)に掲載

<sup>8</sup> 1962 年作成。限定 10 部。こちらの掲載作品は 1956～58 年の作品で、総数は 149 点となっている。瑛九自身が、1958 年に福井県武生市で開催された瑛九石版画展のために作成したリストを参照している。美濃判と証判に分けているが、それ以外の記載は題名のみ。

瑛九が石版画の刷りを教えてもらいに通った金森茂の印刷所も火災で焼失しており、当時の様子をうかがい知ることはできない。石版画については、道具などの資料はほとんど残っていないものの、総目録や書館での記録があるため、おおよその数を割り出すことが出来る。



(図 22) 本間美術館写真資料室撮影の石版画写真集

対して、銅版画については、原版はほとんど残っているものの、瑛九が制作した総数が原版の数とはならない。実際には印刷されていない原版もある上、印刷した後の版を切って別の作品の版を作ったり、後からアクワチントなどを施した版を作ったりして印刷した作品があるからである。石版画はほぼレゾネに近い総目録により、制作数及び作品の画像などが分かっているが、銅版画に関しては、画像や題名、作品のサイズ等が記されているものがミヤ子夫人による私家版の銅版画写真集しかなく、あとは原版を元にして作られた後刷りの作品集の目録のみである。

現在、当館に作品として登録している瑛九の銅版画は 434 点である。そのうち、いわゆる後刷りの作品は、南天子画廊の発刊である瑛九原作銅版画集 1～5 に収録されている 50 点と、林グラフィックプレスの発刊した瑛九銅版画集『SCALE』I～V に収録されている 255 点、当館所蔵の後刷り作品とはエディションが異なるが、寄贈等により単品で収蔵され、重複している作品が 12 点ある。したがって、後刷りとして収蔵されているものは合わせて 317 点である。当館所蔵の南天子画廊の作品はエディションが 45/50、林グラフィックプレスのものは 7/60 (原版の状態によっては母数が 10、45 のものがある) であり、いずれもスタンプサインが入っている。この時に使用されたサインスタンプ (林グラフィックプレス作成) も当館に収蔵されている。

また、2つの後刷り版画集以外に、瑛九自身の版画集や、他者の詩集に収録したものが 28 点ある。内訳は、富松良夫の詩集『黙示』に収録された 1 点、版画集『スフィンクス』に 1 点、版画集『小さい悪魔』に 6 点、詩集『宇宙塵』に 2 点、『EROTICA』1・2 に 18 点である。

さらに、後刷り以外の作品が 89 点あるが、後刷り以外がすべて自刷りであるとはいえない。当館所蔵の資料の中にも池田満寿夫による試し刷りの版画があったり、瑛九のアトリエで銅版画の刷りの手伝いをしていたことがある宮崎県出身の湯浅英夫<sup>9</sup>のような人物もいたりするため、サインや裏書きなどがなければ判別は難しい。現況、瑛九の銅版画のレゾネは作られていない。

瑛九自身が前述の石版画の時と同じように自分の銅版画をまとめた一覧表などがあればよいが、残念ながら明確な記録はない。後刷りの作品 (2つの版画集を合わせると当館所蔵の作品は 305 点) 及びそれに掲載していない版画集『EROTICA』(1、2 合わせて 18 点) などの数を足すと、少なくとも 350 点ほどの銅版画の存在が明らかになってくる。私家版には 1951～58 (昭和 26～33) 年までに制作された 229 点の作品が掲載されており、限定部数が記載されているものもあれば、記載されていないものもある。後刷りの作品 (2 種とも) のデータ整理は、この私家版が元になっ

<sup>9</sup> 湯浅英夫 (ゆあさ ひでお) 1929 (昭和 4)～1974 (昭和 49)、商業写真家。ミヤ子夫人とは実家が近所であったため、幼少期から知り合いであった。高校生の時にミヤ子夫人から招待され、瑛九宅を訪ねて瑛九と出会い、エスプラントに興味をもつようになる。写真のことも瑛九に相談していた。デモクラート美術家協会にも一時期所属していた。



ている。なお、瑛九・銅版画集『SCALE』の説明書きには、私家版に未掲載の作品についてはミヤ子夫人に推定の制作年及び題名を付けてもらったとの記載がある。

『みづゑ』(1955年、596号)に掲載された文章や、山田光春の著書『瑛九 評伝と作品』によれば、瑛九が銅版画に興味を持ったのは少年時代であり、当時銅版画を試みようとして技法書を読むも、専用のプレス機が必要であることがわかり挫折したとある。その頃の瑛九の版画経験といえば木版画であり、ばれんで刷るくらいにしか思っていなかったのである。その後、久保貞次郎の家にて、二人で古い銅版画の技法書と格闘しながら、銅版画らしきものを制作したことを述懐している。最初のエッチングプレス機は、1949(昭和24)年の11月に久保貞次郎から宮崎に送ってもらった緑色に塗装されたプレス機であり、そこから制作が始まっている。この緑色のプレス機は、現在海外にあるようで、2021(令和2)年に「生誕110年記念瑛九展 -Q Ei 表現のつばさ-」を開催した際に、展示会場を訪れたご婦人から該当する写真を見せていただいた。確かに緑色のものであった。アトリエに残っていた小さなエッチングプレス機(湯浅英夫撮影の写真などに写っているもの)は現在当館が所蔵している。



(図 23) 特別展での展示の様子

後刷り以外の当館が所蔵している銅版画作品である89点の内訳については、サインもエディションナンバーも入っている作品が3点、サインとA.Pが3点、サインのみのものが37点ある。サインもエディションナンバーも入っていないものが46点であるが、そのうち裏面に鉛筆書きでタイトル等が記載されているものが7点ある。したがって、自刷りとはっきり断定できないものが39点である。ただし、それらの作品は、入手先の大半がミヤ子夫人や親族であることから、ほとんどは自刷りの作品であると考えられる。

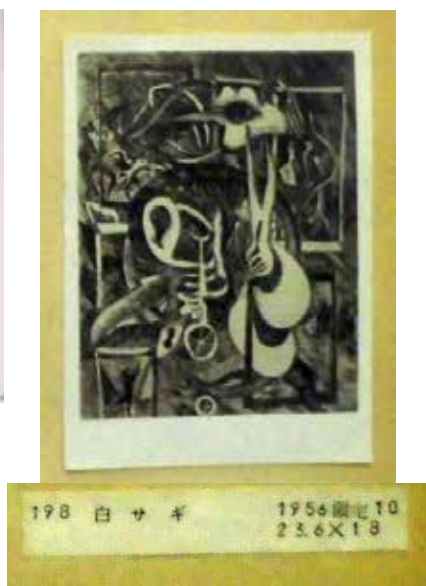
### (3) 銅版画の原版と作品

当館では、南天子画廊版と林グラフィックプレス版の後刷り版画集はすべて収蔵しているため、自刷りの作品と重複して収蔵している作品がある。後刷りの作品自体も同様に一部重複している。また、池田満寿夫による原作銅版画集の試し刷り(資料)も所蔵している。2021(令和2)年に開催した「生誕110年記念瑛九展」では、作品とともに所蔵している原版の一部や、実際に使用していたエッチングプレス機、各種道具類、アトリエ資料としての『SCALE』(収蔵作品とは別のエディションのもの)や私家版の銅版画写真集及び石版画写真集も展示している。また、コレクション展においてもアトリエ資料や山田光春アーカイヴ、書籍などを作品とともに紹介しており、毎回ではないが銅版画に合わせて原版も見比べることができるよう工夫している。それらの作品と私家版の銅版画写真集及び原版を照合させていくと、下に示すような作品があった。

一部であるが、原版と実際の作品を見比べてみる。



(図24)「白サギ」(P-72)



(図25)  
No.198「白サギ」(私家版)



(図26)「白サギ」(P-1835)



(図27)「白さぎ」(P-60)  
※後刷り(南天子画廊)

P-72(図24)には、左下に「ED 4/10」、右下にサインと制作年が記入しており、裏面には左上に丸囲いで「56」及び「No.198 白サギ」とペン書き、左下に「45」と鉛筆書きがある。

私家版(図25)にも限定10部とあるので記入事項と合致する。「56」は制作年の1956年のことだと思われるが左下の「45」については何の数字かは不明である。P-1835(図26)には表裏ともに署名等は記載されていない。したがって、記載情報に基づく決め手には欠ける。ただし、この作品は実妹からまとめて寄贈を受けたものであり、瑛九による作品であると考えられる。また、私家版の写真画像を見ると、差異はほとんどないように思われる。後刷りの作品(南天子画廊発刊の「瑛九原作銅版画集5風車」に収録)(図27)は題名が「白さぎ」とひらがなになっているが、同柄である。原作銅版画集は池田満寿夫が刷りを担当している。ただし、こちらの作品は「瑛九原作銅版画集総目録」において1955年作と記載されているが、私家版では1956年となっており、裏面の年記もあることから1956年の方が正しいと考える。





(図28)「母」(P-657)



(図29)「母」の原版



(図30)「母」拡大図(部分)



(図31)原版拡大図(部分)



(図32)「山びこ」(P-652)



(図33)「森の家」(P-311)



(図34)

(私家版掲載画像)

左: No.67「山びこ」

右: No.200「森の家」



(図35)原版部分拡大

「母」は2点所蔵しており、P-657(図28)が右下にサイン及び年記がある。私家版瑛九銅版画集では限定部数が10とあるが、本作品にはエディションナンバーの記載がない。ただし裏面に鉛筆書きで「98 母」とあり、これは私家版の番号と合致することから、瑛九の自刷りの作品と考えられる。もう1点の作品(P-228)は林グラフィックプレス刊行銅版画集『SCALE』Iに収録されている後刷りの作品である。この作品の原版(図29)もあり、瑛九のしつこいまでの線描の様子が確認できる(図30、31)。

1955(昭和30)年発行の『みづゑ』596号で、銅版画について瑛九は「鉄筆ののがった先で、銅版の上に薄く伸べられたグラウンドを切っていく時、それはペンのデッサンに似ている様でまったく違った新しい経験であった。そしてその線は硝酸によって力強くまたはデリケートに彫りこまれる。」と書いている。瑛九は下書きを転写するのではなく、直接版に描いていたという。「この線でなければ」と思える線を描くことに邁進していた時期である。

「山びこ」(P-652)(図32)は自筆のサインと年記があり、それによると1953年作である。また、後刷りの作品「森の家」(P-311)(図33)と比べてみると、「山びこ」に加筆がなされていると考えられる。しかしながら、私家版の銅版画写真集(図34)では「森の家」の図柄の方に「67 山びこ 1953 限定5 18×12.5」と記載されており、「山びこ」と同柄の図版には「200 森の家 1956 限定1 18×12.8」と記載されている。原版(図35)として残っていたのは「森の家」の図柄であり、「山びこ」は「森の家」の加筆前のものと思われるので、私家版(少なくとも当館所蔵の1/10のもの)は図柄の貼り間違いであろうと考える。後刷りの作品集はこの私家版を元に整理しているため、当館所蔵のものとは異なる私家版写真集を元にしており、手作りのものである上、次頁資料一覧にあるように、準備した画像写真も反転していたり、大量にあつたりしたため誤りが生じたのではないかと考えられる。しかし、後刷りでは自然腐食ありとして処理してある。



資料 1














アトリエ資料：瑛九銅版画写真1（私家版に使用したものと同様の紙焼き）

※各画像の下に、私家版銅版画写真集の掲載番号、タイトル及び写真の枚数を記載。

				
73 春 7枚	159 河の女神 8枚	24 イヴ 8枚	77 メガフォン 9枚	186 愛の鳥 8枚
6	7	8	9	10
				
74 女人像 10枚	180 プロポーズ 10枚	113 いたずら 8枚	61 くも 9枚	183 風の中 9枚
11	12	13	14	15
				
133 魔魚 10枚	182 二人 9枚	199 サークラス 10枚	201 神話 4枚	122 カメラ 10枚
16	17	18	19	20
				
57 二つの顔 9枚	130 航海 7枚	138 花(反転) 8枚	140 夜の道 10枚	181 夜空 10枚
21	22	23	24	25
				
65 くちびる 10枚	197 一人ぼっち 6枚	190 湖の花 7枚	196 鳥のあそび 8枚	67 山びこ(反転) 8枚
26	27	28	29	30
				
157 潜水夫の恋 9枚	54 乱舞 9枚	75 怒り 6枚	111 黒い世界 10枚	63 魚 8枚

アトリエ資料：瑛九銅版画写真2（私家版に使用したものと同様の紙焼き）

※各画像の下に、私家版銅版画写真集の掲載番号、タイトル及び写真の枚数を記載。

31 	32 	33 	34 	35 
79 家族A 10枚	68 忘れた路 8枚	135 自然(反転) 8枚	129 風 11枚	31 鳥の精 9枚
36 	37 	38 	39 	40 
131 空間(反転) 10枚	66 コンプレックス 5枚	55 動物の仲間 9枚	27 海の中 10枚	171 海 9枚
41 	42 	43 	44 	45 
112 光(反転) 7枚	36 人魚の群 9枚	137 恋人 10枚	64 無我 10枚	126 よろこびB 8枚
46 	47 	48 	49 	50 
178 白い輪 9枚	161 日曜日 8枚	109 トンボ 10枚	127 影 10枚	62 鳥の精 8枚
51 	52 	53 	54 	55 
89 ドンファン 8枚	134 女(反転) 10枚	151 いかり 8枚	58 乙女 7枚	158 会話 6枚
56 	57 	58 		
160 ひるね 10枚	60 空想 11枚	132 楽士(反転) 10枚		

※反転していたため、使用されていないものもある。すべての画像にサイン等は写っていない。



#### 4 スケッチ類

現在作品としては収蔵していないが、アトリエのまとまった資料の中にいくつかのスケッチブックがある。これらの制作時期は定かでないものが多いが、そのうちいくつかのものについては、瑛九のポスターデザインや依頼された仕事のアイデアスケッチとして制作時期がある程度わかるものがある。スケッチ類の一部を描かれているものや描き方などで分類してみる。



(図36)



(図37)



(図38)



(図39)



(図40)



(図41)

##### (1) 人物

走り書きのようなものも含め、人体などを描いた素描が数点ある。モデルが定かではない素描もあり、一部のみ描いて途中でやめているものや、1枚の紙に複数の素描を描いているものもある。描画材は鉛筆が多いが、ペン類で描かれている素描も含まれている。(図36)のスケッチは3つのものが描いてある。左上には幼い子供の頭部、左下には簡素化された人体、右側には頭が鳥になった空想上の人物がそれぞれ濃さの異なる鉛筆で描かれている。(図37)は赤と青の色鉛筆を使い、海岸の砂浜と思われる場所に座る2人の人物と、数人が遠泳をしている様子を描いている。左下に「40-1」と記載があるが、1940年のことであるかは定かではない。(図38)の裸婦のように大まかな形だけ描いたものも多くみられる。

##### (2) 風景

風景とわかるスケッチが数点あり、鉛筆等で描かれている。それぞれのスケッチが、油彩などに反映されているかは確認されていない。(図39)は赤鉛筆で「42.7.7」と左下に書かれており、1942年の作であると考えられる。(図40)は水面に浮かぶヨットも描かれている。

油彩でもヨットが描かれた海景があるが、視点は陸側からのものである。

##### (3) 形の組み合わせ

何かをスケッチしたものではなく、様々な形を組み合わせたものや、線の組み合わせのものが複数点ある。構成図案のようなスケッチが多い。(図41)のように別のスケッチの上から描いているものもある。

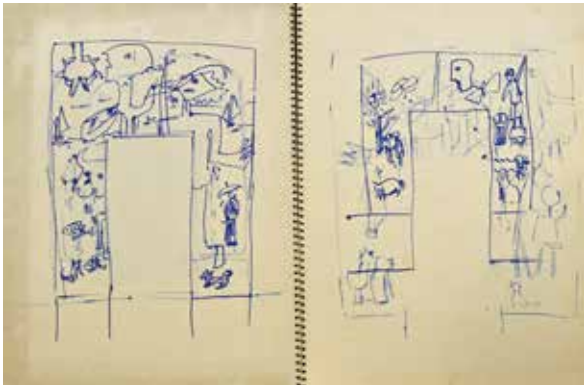




(図42)



(図43)



(図44) 宮崎県立図書館子供読書室壁画用アイデアスケッチ



(図45) 宮崎県立図書館創立五十周年記念ポスター



(図46)



(図47)

#### (4) 線画

ペンや筆を使い、自動筆記のようなスタイルで自由に描いている(図42、43)。何らかの形をイメージしているかのようなものもあるが、筆の動きなどを意識したものもある。スピード感のある線や、たどたどしく紙の上を彷徨うような線、抑揚のある線など様々な線を試すかのごとく大量に描いている。直線的なものは少なく、自由曲線のものが多い。銅版画の背景などに使われる線は、版の性質上直線的であったり、硬質なものが多いが、紙の上に描くのは柔らかな線や曲線で構成されている。

#### (5) アイデアスケッチ

1947(昭和22)年に宮崎県立図書館の館長に就任した中村地平<sup>10</sup>は「花と絵のある図書館」づくりを目指した。図書館の周りに花を植え、館内では瑛九や同じ宮崎出身画家である塩月桃甫などの作品や、宮崎にゆかりのある児島虎次郎らの作品が展示されていた。

また、図書館のマークを塩月桃甫がデザインしたり、子供読書室の壁画(図44)を瑛九が担当したりと、図書館は画家達の作品にあふれていた。

壁画のアイデアスケッチでは、子供達が楽しめるようにいろいろと考えを巡らせたであろう瑛九の試行錯誤を見ることができる。瑛九はこの他にも図書館の創立50周年を記念するポスター(図45)を手がけている。このポスターのアイデアスケッチも複数残されており(図46)~(図47)などのように建物のスケッチや、人物等の図案化などを見ることができる。デザイン的な仕事は絵画などの制作とは分けて考えているところもあり、生活資金調達のために友人知人に紹介してもらったこともあった。とはいえ、図書館のポスターや壁画のような、成果物とアイデアスケッチが揃っているものは貴重である。

<sup>10</sup> 中村地平(なかむら ちへい) 1908(明治41)~1963(昭和38) 宮崎市生まれ。東京大学文学部卒業。太宰治とともに井伏鱒二の門下生であった。図書館長時代は県民の文化振興に努めた。作家活動も続けていたが、晩年は実父の後を継ぎ、宮崎相互銀行(現宮崎太陽銀行)の社長を勤めた。瑛九とは中村が受け持っていた地元新聞のコーナーで対談している。

### Ⅲ 生誕 110 年記念瑛九展記録

#### 1 開催記録

##### (1) 会期等

会期：2021(令和3)年10月23日(土)～12月5日(日) ※計36日間

会場：企画展示室

観覧料：当日券のみ 一般700(500)円、高校生以下無料 ※( )内は団体

観覧者数：3,099名(学校団体数28、一般団体数3)

展示作品総数：253点(借用58点含む)

資料扱いスケッチ25点、ガラス乾板及び紙焼き3組6点、型紙5点、銅版原版27枚

その他瑛九の道具、遺品類、書籍資料などアトリエ資料及び山田光春アーカイヴ(一部)

関連行事：①瑛九トーク 全12回

実施日時(10月23日、28日、30日、11月6日、11日、13日、18日、20日、25日、27日、  
12月2日、4日) 午後2時～(30分程度)

参加人数(総数) 165名

##### ②えいきゅうぬりえ

「鳥」「旅人」「コップを持つ男」「誕生」「蝶と女」のA5サイズ塗り絵を配布

##### ③大学生による瑛九作品鑑賞授業提案(パネル展示)

指導計画案、鑑賞ワークシート、樺島優子氏(宮崎大学教育学部美術科講師)による人形  
「瑛九くん」展示

##### ④エスペラント講習会

実施日：11月3日(水・祝) 午後1時30分から

講師：松本淳氏(宮崎エスペラント会会長) 協力：宮崎エスペラント会

参加人数：9名(小学生1名含む)

内容：エスペラントの紹介、鑑賞をするときの会話など簡単なフレーズを練習してから展示室内  
で会話体験を行う。

##### ⑤フォト・デッサン体験&鑑賞

実施日：11月7日(日) 午後1時30分から午後3時

参加人数：5名(高校生)

内容：暗室等を使用して実際のフォト・デッサンの制作を体験し、その後展示室でフォト・デッ  
サンの鑑賞を行う。

##### (2) 配布資料

- ① 記念小冊子(有料入場者のみ)
- ② 鑑賞ガイド「えいきゅうのとも」(会場入り口で配布)
- ③ 鑑賞カード「ミニミニ瑛九」8種(会場内に設置)
- ④ 団体用資料(団体入場者に配布)

##### (3) その他

- ① 宮崎県立図書館事業協力 ラーニング・コモンズ事業「“みて よんで かいて 瑛九さんのヒミツ”」
  - ・ 生誕110年記念瑛九展案内
  - ・ 瑛九資料提供及び原稿チェック





( 図 48) 展示会場風景



( 図 49) ガラス乾板と密着焼 ( 個人蔵)

## 2 展示資料

展覧会開催にあたって、作品のみならず多数の瑛九関係資料を公開した。当館が所蔵する資料は、2008(平成20)年収蔵の 山田光春アーカイヴ資料(音声テープ等含む約4,400件)、2010(平成22)年～2019(平成31/令和元)年アトリエ等からの寄贈資料(道具、スケッチ等含む約1,000件)などがある(別表4)。今回は、作品に関連した資料(道具類)は各章に関連コーナーを設置して展示し(図48)、山田光春の取材資料やポスター類、写真、書籍資料、当館が制作した瑛九番組などは会場外にコーナーを設置して展示または上映を行った。また、瑛九関係者より書簡や写真記録も借用することができたため、併せて展示公開した。

道具類については、作品がどのように制作されているのかを知る手がかりでもあり、メーカーなどが分かるものがあると、制作年が不明の作品であればある程度時期を推察できるものにもなる。ギャラリートークにおいても、道具について触れながら作品を紹介すると、観覧者の反応としては、作品の筆のタッチを確認したり、作品のどの部分に使用されたのか道具と見比べて考えたりする様子が見られた。また、銅版画の原版やフォト・デッサンの型紙、ガラス乾板(図49)なども展示することで、瑛九の制作過程の一端ではあるが紹介することができた。

書簡については、瑛九が書いたものは多く残っているが、瑛九宛てに送られたものは残念ながら残っていない。書簡集も出版されているものの、瑛九からのもののみで構成されており往復書簡とはなっていない。アトリエ等の調査により、瑛九に届いた書簡は瑛九の葬儀の際に処分されており、残っていないことが判明している。アトリエ資料の中に含まれている書簡は、瑛九の没後にミヤ子夫人に送られたものが多く、瑛九の関係者との交流が引き続き行われていたことが推察できるものが多い。展覧会で公開した書簡には、瑛九のアトリエに滞在し、銅版画の印刷などを手伝った湯浅英夫に宛てたものもあったが、瑛九が銅版画集『EROTICA』の販売のとりまとめを依頼しており、

頒布の価格や部数、売れ行きや状況や心情も書かれているなど、当時を知る資料として貴重なものであった。他にも写真の進路のことで相談をしていた湯浅に対し、写真関係者に声をかけ、様々な手立てを講じる瑛九の様子が分かる書簡などがあった。2011(平成23)年開催の「生誕100年記念瑛九展」では、瑛九の一側面として教育者や啓蒙家の部分に着目したが、10年経って改めてこのような書簡が提供されたことにより、具体的に知ることができた。また、書籍等では確認できない瑛九の関係者についても、書簡に基づいてインタビューするなど、より調査を深めることができ、既存のアーカイブ資料との関連についても紐付けることができた。

コレクション展においてもアーカイブ資料を作品と関連付けて展示しているが、今後も資料を活用していくためには詳細な記録をとり、データ化していくことが必要である。現段階では一覧があるが、画像等とセットにしていないものも多く一元化がなされていない。また、2008(平成20)年収録のアーカイブ資料はデータを検索できるようにソフト化した<sup>11</sup>が、現在はバージョンが更新できず、検索機能は使用できていない。収録した年度別のデータがそれぞれ作られてはいるが、項目などが統一されておらず、再調査が必要なものもある。今後は、瑛九に関する資料データを統一規格にして一元化し、キーワード検索などができるようにすることで活用の促進を図る必要がある。

#### IV おわりに

筆者が宮崎県立美術館で瑛九展示室を担当して通算11年になる。美術館を離れていた7年の間にも様々な場所で瑛九作品を見て知る機会・学ぶ機会も多くあった。山田光春が、久保貞次郎が、木水育男らが残した記録、書籍、画集、目録などを頼りに、そして何よりも瑛九を愛し、その作品を子供のように守ってきたミヤ子夫人、杉田家の人々が受け継いできたものをもとにして、画家・瑛九だけではなく、瑛九という一人の人間を紹介していくことは、全国の中で唯一「瑛九展示室」を持つ宮崎県立美術館の使命である<sup>11</sup>と考える。しかしながら、かつて冊子『藝術家瑛九』の中で長谷川三郎が書いたように、「瑛九の繪はむずかしい」<sup>11</sup>では多くの人に伝わらない。瑛九を近寄り<sup>11</sup>たいものにせず、宮崎の人々、ひいては全国、世界の人々に「なじみの」画家になるよう伝え方を工夫していきたいと思う。瑛九は広く浅い部分と、深い海溝のような部分を併せ持っている。瑛九の全貌はまだまだつかめていない。今後はエスペラントで書かれたものも含め、瑛九の言葉と作品についても研究を進めていきたい。

---

<sup>11</sup> 長谷川三郎「瑛九の繪」『藝術家瑛九』、内田耕平編、瑛九後援会、1950、p.4



参考文献等

- 山田光春『瑛九 評伝と作品』、青龍洞、1976
- 山田光春『瑛九伝』、合本版、1970
- 瑛九美術館（木水クニオ）『瑛九からの手紙』、P.S プランニング、2000
- 山田光一 編「瑛九ー光春 書簡」〔書写編纂〕（私家版）、2009
- 「自由こそ～美の革命家／その名は瑛九～」、UMK テレビ宮崎、1996年4月20日放送
- 瑛九「カメラのいない寫真術 フォトグラムの作り方」『CAMERA』7月号、1952、pp.45-47
- 瑛九「今年の課題など」『みづゑ』No.596、美術出版社、1955、p.31
- 長谷川三郎「瑛九の繪」『藝術家瑛九』、内田耕平編、瑛九後援会、1950
- m.Sugita（谷口ミヤ子）編 写真アルバム『Q Ei 銅版画写真集』（私家版）、1962、(図18～20、図25、34)
- 瑛九原作銅版画集編集委員会『瑛九原作銅版画集総目録』、南天子画廊、1969
- エディシオン エパーヴ 編「瑛九・銅版画 SCALE I」目録、林グラフィックプレス、1974
- エパーヴ 編「瑛九・銅版画 SCALE II」目録、林グラフィックプレス、1975
- エパーヴ 編「瑛九・銅版画 SCALE III」目録、林グラフィックプレス、1976
- 「瑛九・銅版画 SCALE IV」目録、林グラフィックプレス、1983
- 「瑛九・銅版画 SCALE V」目録、林グラフィックプレス、1983
- 原田勇 堀栄治 山崎巧（撮影）編『瑛九石版画総目録』、瑛九の会（福井）、1974
- 本間美術館 編 写真アルバム『Q Ei 石版寫真集』、1961
- 写真アルバム「瑛九油絵目録」（「1962年頒布作品 No. 瑛九作」と記載された半紙貼付）、1962？  
（複写版）山田光春 編『瑛九油彩作品写真集』、1977
- 山崎巧 堀栄治 編 写真アルバム『EI・Q 100OILPAINTING WORKS IN FUKUI』、1970
- 池田満寿夫、オノサト・トシノブ、早川良雄、細江英公「座談会 私たちの中の瑛九」『みづゑ』No.766、1968、  
p.30
- 瑛九「ヒカリ染め」『毎日グラフ』11月10日号 第五年第三十二号通巻第一三七号、1952、pp.14-15
- 宮崎県立美術館、埼玉県立近代美術館、うらわ美術館 編『生誕100年記念 瑛九展』図録、宮崎県立美術館  
埼玉県立近代美術館 うらわ美術館 美術館連絡協議会、2011

宮崎県立美術館所蔵瑛九油彩作品		※大きさの欄の記号は支持体。★はカンヴァス、☆は板または合板、●はキャンバスボード、○はボール紙、◆はガラス、◇は紙 ※制作年不明の作品は、絵柄で推定した年代に挿入した。			
凡例：題名 制作年 大きさ (cm) / 支持体 サインの有無 / 位置 購入・移管・寄贈の別 作品番号	画像	マッチの軌跡 1936 (昭和11) 53.2×45.7 ★ 署名なし 平成5年度購入 0-387		フミタ写真館 1941 (昭和16) 45.4×33.7 ★ 左下に署名 平成5年度購入 0-402	
秋の日曜日 1925 (大正14) 23.7×32.9 ○ 署名なし 平成4年度寄贈 0-376		作品-E 1936 (昭和11) 45.7×53.4 ★ 署名なし 平成5年度購入 0-390		君姉像 1941 (昭和16) 32.8×23.9 ● 署名なし 平成5年度寄贈 0-442	
赤い帽子 1926 (昭和元) 33.0×23.8 ☆ 左下に署名 昭和55年度寄贈 0-80		作品-F 1936 (昭和11) 45.7×53.3 ★ 署名なし 平成5年度購入 0-391		裸婦 (習作) 1941 (昭和16) 24.2×33.1 ○ 署名なし 平成21年度寄贈 0-665	
ワーレン氏宅 1932 (昭和7) 33.3×24.5 ★ 署名なし 平成21年度寄贈 0-664		大堂津風景 1936 (昭和11) 頃 49.8×60.3 ★ 左下に署名 昭和61年度寄贈 0-218		高千穂通り A 1942 (昭和17) 33.7×45.5 ★ 署名なし 平成5年度購入 0-403	
ザメンホフ像 1934 (昭和9) ★ 53.1×41.0 署名なし 昭和58年度寄贈 0-134		ほろよい (よいどれ 心理) 1937 (昭和12) 32.3×41.4 ◆ 左下に署名 昭和58年度購入 0-121		赤屋根の家 1942 (昭和17) 頃 27.2×40.7 ★ 左下に署名 昭和61年度寄贈 0-221	
妹の像 1935 (昭和10) 72.7×60.8 署名なし 昭和48年度購入 0-31		でいすい (よいどれ 心理) 1937 (昭和12) 37.9×45.8 ◆ 右下に署名 昭和58年度購入 0-122		妹の像 1942 (昭和17) 頃 63.6×57.9 ★ 左上に署名 平成3年度寄贈 0-342	
タバコを吸う女 1935 (昭和10) 32.4×23.7 ○ 左上に署名 昭和55年度寄贈 0-82		よひざめ (よいどれ 心理) 1937 (昭和12) 33.9×46.0 ◆ 左下に署名 昭和58年度購入 0-123		並樹 A 1943 (昭和18) 33.3×24.3 ☆ 署名なし 平成5年度寄贈 0-443	
静物 1935 (昭和10) 45.6×38.3 ★ 左下に署名 昭和61年度寄贈 0-219		真岡風景 1938 (昭和13) 41.4×53.2 ☆ 署名なし 平成8年度移管 0-516		コップを持つ男 1943 (昭和18) 45.8×38.3 ★ 署名なし 平成5年度購入 0-389	
卓上の静物 1934-35 (昭和9-10) 33.5×45.8 ★ 署名なし 昭和61年度寄贈 0-220		誕生 1940 (昭和15) 45.5×53.1 ★ 中右下に署名 平成8年度購入 0-501		ギターを弾く少女 1943 (昭和18) 90.0×71.5 ★ 署名なし 平成4年度購入 0-355	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九油彩作品

※大きさの欄の記号は支持体。 ★はカンヴァス、☆は板または合板、●はキャンバスボード、○はボール紙、◆はガラス、◇は紙  
※制作年不明の作品は、絵柄で推定した年代に挿入した。

<p>ヨット 1943 (昭和 18) 73.3×91.2 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-388</p> 	<p>仏心 制作年不明 45.8×38.2 ★ 署名なし 昭和 59 年度寄贈 0-205</p> 	<p>海底 1948 (昭和 23) 91.2×72.7 ★ 署名なし 昭和 55 年度寄贈 0-81</p> 
<p>宮崎郊外 1943 (昭和 18) ★ 72.5×90.8 右下に署名 昭和 48 年度購入 0-30</p> 	<p>妹像 1944 (昭和 19) 27.8×23.3 ☆ 署名なし 平成 21 年度寄贈 0-666</p> 	<p>赤衣 1948 (昭和 23) 33.5×24.4 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-422</p> 
<p>テーブルに寄る 1943 (昭和 18) 60.9×73.0 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-409</p> 	<p>テラス 1946 (昭和 21) 22.6×28.8 ◇ 左下に署名 昭和 46 年度購入 0-8</p> 	<p>逆光 1948 (昭和 23) 45.1×38.0 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-423</p> 
<p>妹の像 1943 (昭和 18) 27.8×23.4 ◇ 右上に署名 平成 5 年度寄贈 0-441</p> 	<p>都立像 1946 (昭和 21) 60.8×45.5 ★ 署名なし 昭和 63 年度購入 0-255</p> 	<p>プロフィール 1948 (昭和 23) 41.0×32.0 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-424</p> 
<p>兄 1943 (昭和 18) 23.3×28.4 ◇ 署名なし 平成 8 年度移管 0-515</p> 	<p>椅子の都夫人 制作年不明 45.2×33.2 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-425</p> 	<p>読書 1948 (昭和 23) 45.3×37.8 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-426</p> 
<p>少女の像 1942-43 (昭和 17-18) 106.4×91.5 ★ 右上に署名 平成 5 年度購入 0-379</p> 	<p>街 1947 (昭和 22) 116.8×91.5 ★ 左下に署名 昭和 48 年度購入 0-32</p> 	<p>労働 1947-48 (昭和 22-23) 91.3×117.0 ★ 署名なし 平成 4 年度購入 0-353</p> 
<p>題不明 制作年不明 39.0×31.0 ★ 署名なし 平成 28 年度寄贈 0-720</p> 	<p>裸婦 1947 (昭和 22) 91.2×72.2 ★ 署名なし 昭和 58 年度寄贈 0-132</p> 	<p>窓をあける 1949 (昭和 24) 73.0×60.9 ★ 左下に署名 昭和 55 年度寄贈 0-83</p> 
<p>酒場 1944 (昭和 19) 25.6×29.6 ◇ 左上に署名 平成 4 年度購入 0-368</p> 	<p>題不明 (裸婦) 制作年不明 27.2×21.4 ☆ 署名なし 平成 21 年度寄贈 0-667</p> 	<p>人物 1949 (昭和 24) 60.7×72.8 ★ 署名なし 昭和 60 年度購入 0-206</p> 
<p>カトリック教会 制作年不明 53.0×72.7 ★ 署名なし 平成 8 年度寄贈 0-506</p> 	<p>湖 (2) 1946-47 (昭和 21-22) 72.6×91.2 ★ 右下に署名 昭和 46 年度購入 0-9</p> 	<p>鳩 1949 (昭和 24) 72.8×60.8 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-427</p> 

# 宮崎県立美術館所蔵瑛九油彩作品



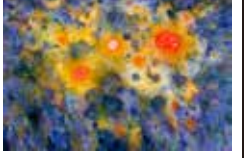





※大きさの欄の記号は支持体。★はカンヴァス、☆は板または合板、●はキャンバスボード、○はボール紙、◆はガラス、◇は紙  
 ※制作年不明の作品は、絵柄で推定した年代に挿入した。

<p>二人 1949 (昭和 24) 73.2×61.0 ★ 左下に署名 平成 7 年度移管 0-481</p>		<p>芽 1954 (昭和 29) 145.2×97.9 ★ 左下に署名 平成 4 年度購入 0-354</p>		<p>月 1957 (昭和 32) 162.2×130.5 ★ 右上に署名 昭和 46 年度寄贈 0-14</p>	
<p>静物 1949 (昭和 24) 45.6×52.8 ★ 左下に署名 平成 13 年度購入 0-600</p>		<p>時計の顔 1954 (昭和 29) 33.0×23.9 ● 左下に署名 平成 5 年度購入 0-406</p>		<p>みづうみ 1957 (昭和 32) 91.3×116.3 ★ 左下に署名 昭和 57 年度購入 0-116</p>	
<p>蝶と女 1950 (昭和 25) 80.7×65.5 ★ 左上に署名 昭和 55 年度寄贈 0-79</p>		<p>とり 1954 (昭和 29) 23.7×33.4 ☆ 署名なし 平成 5 年度購入 0-408</p>		<p>愛の歌 1957 (昭和 32) 79.8×65.4 ★ 署名なし 平成元年度購入 0-268</p>	
<p>花火 制作年不明 42.5×34.9 ◆ 署名なし 平成 2 年度購入 0-292</p>		<p>花の散歩 1954 (昭和 29) 33.3×24.0 ☆ 右下に署名 平成 8 年度購入 0-502</p>		<p>街の灯 1957 (昭和 32) 53.3×65.5 ★ 署名なし 平成 4 年度購入 0-344</p>	
<p>花と家 1951 (昭和 26) 23.5×44.6 ◆ 署名なし 昭和 46 年度購入 0-10</p>		<p>眼が回る 1955 (昭和 30) 53.5×65.1 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-384</p>		<p>花火C 1957 (昭和 32) 45.5×53.1 ☆ 左下に署名 平成 4 年度購入 0-369</p>	
<p>題不明 1951 (昭和 26) 22.8×15.8 ☆ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-386</p>		<p>鳥 1956 (昭和 31) 52.9×45.4 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-395</p>		<p>水の面 1957 (昭和 32) 45.4×38.0 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-383</p>	
<p>作品 1951 (昭和 26) 頃 45.6×38.0 ★ 左下に署名 昭和 45 年度購入 0-7</p>		<p>青の動き 1956 (昭和 31) 53.0×41.2 ★ 中下に署名 平成 5 年度購入 0-407</p>		<p>森の中 1957 (昭和 32) 44.3×51.7 ☆ 右下に署名 平成 5 年度購入 0-385</p>	
<p>眼 1953-54 (昭和 28-29) 100.2×80.5 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-382</p>		<p>夜の森 1955-56 (昭和 30-31) 73.0×90.6 ★ 署名なし 昭和 58 年度寄贈 0-133</p>		<p>題不明 1957 (昭和 32) 31.9×41.4 ☆ 右下に署名 平成 5 年度購入 0-392</p>	
<p>だだっこ 1954 (昭和 29) 90.7×64.8 ★ 中下に署名 昭和 57 年度購入 0-115</p>		<p>ビルの窓 1957 (昭和 32) 91.2×72.6 ☆ 署名なし 昭和 46 年度購入 0-11</p>		<p>空の目 1957 (昭和 32) 72.7×60.9 ★ 左上に署名 平成 5 年度購入 0-428</p>	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九油彩作品

※大きさの欄の記号は支持体。★はカンヴァス、☆は板または合板、●はキャンバスボード、○はボール紙、◆はガラス、◇は紙  
※制作年不明の作品は、絵柄で推定した年代に挿入した。

<p>青のれいめい 1957 (昭和 32) 33.4×45.5 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-430</p> 	<p>赤にむらがる黄色 1958 (昭和 33) 41.1×32.0 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-429</p> 	<p>作品 1959 (昭和 34) 64.7×79.3 ★ 左下に署名 平成 6 年度購入 0-460</p> 
<p>ながれ 1957 (昭和 32) 64.8×91.2 ☆ 署名なし 平成 7 年度購入 0-480</p> 	<p>まつり 1958 (昭和 33) 90.8×106.4 ★ 左下に署名 平成 6 年度購入 0-459</p> 	<p>田園 B 1959 (昭和 34) 130.7×194.0 右下に署名 平成 8 年度移管 0-509</p> 
<p>籠目の青 1957 (昭和 32) 72.9×53.3 ★ 左下に署名 平成 8 年度購入 0-499</p> 	<p>嵐 1958 (昭和 33) 90.9×116.7 ★ 署名なし 平成 7 年度購入 0-479</p> 	<p>つばさ 1959 (昭和 34) 259.0×181.8 ★ 署名なし 昭和 46 年度購入 0-13</p> 
<p>作品 1957 (昭和 32) 頃 22.2×16.1 ☆ 左上に署名 平成 5 年度購入 0-404</p> 	<p>赤のあつまり 1958 (昭和 33) 40.7×32.2 ★ 左下に署名 平成 8 年度移管 0-507</p> 	
<p>丸のあそび 1958 (昭和 33) 155.7×91.5 ☆ 署名なし 昭和 46 年度購入 0-12</p> 	<p>あつまり 1958 (昭和 33) 45.6×53.0 ★ 左下に署名 平成 8 年度移管 0-508</p> 	
<p>飛びちる花びら 1958 (昭和 33) 80.3×116.3 ★ 左下に署名 平成元年度購入 0-267</p> 	<p>ブーケ (花束) 1959 (昭和 34) 162.0×130.3 ★ 左下に署名 昭和 63 年度購入 0-232</p> 	
<p>紺の中の黒 1958 (昭和 33) 37.8×45.6 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-381</p> 	<p>群 1958-59 (昭和 33-34) 97.2×130.2 ★ 右上に署名 昭和 35 年度購入 0-6</p> 	
<p>題不明 1958 (昭和 33) 37.9×45.4 ★ 左下に署名 平成 5 年度購入 0-394</p> 	<p>黄色のかけ 1959 (昭和 34) 37.2×44.8 ★ 署名なし 平成 5 年度購入 0-393</p> 	
<p>むれ 1958 (昭和 33) 22.2×27.2 ☆ 右下に署名 平成 5 年度購入 0-405</p> 	<p>雲 1958-59 (昭和 33-34) 60.8×72.8 ★ 右下に署名 平成 4 年度購入 0-345</p> 	

宮崎県立美術館所蔵英九フォト・デッサン作品				※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。 ※★は英九展記念フォト・デッサンに収録された複写。 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。	
凡例：題名 制作年 ※●の後は オリジナルもの 大きさ (cm) サインの有無 / 位置 購入・寄贈・移管の別 作品番号	画像	器			
		器 1936 (昭和 11) 27.1×21.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-63		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 26.9×21.9 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-80	
題不明 1935 (昭和 10) 29.8×25.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-57		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 27.2×21.9 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-72		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 23.8×19.8 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-82	
眼 1936 (昭和 11) ※フォト・コラージュ 27.6×23.0 署名なし 昭和 46 年度購入 PH-6		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 26.8×22.0 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-73		題不明 1936 (昭和 11) 22.6×27.6 署名なし 平成 7 年度寄贈 PH-141	
作品 A 1936 (昭和 11) 30.0×24.8 署名なし 昭和 56 年度寄贈 PH-22		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 22.0×27.0 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-74		空きよなる朝 1936 (昭和 11) 22.6×27.7 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-81	
題不明 1936 (昭和 11) 22.6×27.7 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-58		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 21.8×27.1 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-75		題不明 1936 (昭和 11) 25.3×30.2 署名なし 平成 7 年度寄贈 PH-140	
題不明 1936 (昭和 11) 25.3×30.4 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-59		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 22.3×27.2 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-76		作品 1936 (昭和 11) 25.3×20.8 署名なし 平成 4 年度購入 PH-99	
題不明 1936 (昭和 11) 25.1×30.2 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-60		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 27.0×21.7 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-77		作品 1936 (昭和 11) 30.4×25.0 署名なし 平成 4 年度購入 PH-92	
作品 B 1936 (昭和 11) 28.4×23.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-61		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 21.6×26.6 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-78		作品 1936 (昭和 11) 29.9×24.9 署名なし 平成 4 年度購入 PH-91	
花 1936 (昭和 11) 30.3×25.2 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-62		フォト・デッサン集 「眠りの理由」より 1936 (昭和 11) 22.1×27.1 署名なし 平成 4 年度寄贈 PH-79		作品 1936 (昭和 11) 25.3×30.3 署名なし 平成 4 年度購入 PH-88	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。

		プロフィール 1950 (昭和 25) 22.7×19.3 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-64		作品 1950 (昭和 25) 25.5×20.2 署名なし 平成 4 年度購入 PH-102	
作品 1936 (昭和 11) 30.3×25.7 署名なし 平成 4 年度購入 PH-87		Visitors to a Ballet Performance 1950 (昭和 25) 45.7×55.8 署名なし 昭和 60 年度購入 P-38		作品 1950 (昭和 25) 25.5×20.2 署名なし 平成 4 年度購入 PH-100	
題不明 1936 (昭和 11) 41.9×53.7 署名なし 平成 7 年度寄贈 PH-120		泳ぐ 1950 (昭和 25) 40.0×50.6 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-33		作品 1950 (昭和 25) 25.9×20.9 署名なし 平成 4 年度購入 PH-98	
作品 1936-37 (昭和 11-12) 27.8×22.4 署名なし 平成 4 年度購入 PH-95		乱舞 1950 (昭和 25) 55.8×45.5 署名なし 昭和 46 年度購入 PH-1		作品 1950 (昭和 25) 24.7×19.8 署名なし 平成 4 年度購入 PH-96	
題不明 1937 (昭和 12) ※フォト・コラージュ 30.3×20.7 左下に署名 昭和 60 年度購入 PH-32		食堂 1950 (昭和 25) 42.5×52.4 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-34		作品 1950 (昭和 25) 27.5×23.0 署名なし 平成 4 年度購入 PH-94	
題不明 1937 (昭和 12) ※フォト・コラージュ 23.7×16.7 左下に署名 昭和 60 年度購入 PH-31		合唱 1950 (昭和 25) 41.5×51.0 左下に署名 昭和 60 年度購入 PH-35		動物園 1950 (昭和 25) 20.7×27.2 右下に署名 平成 8 年度移管 PH-199	
作品 1937 (昭和 12) 30.0×24.4 署名なし 平成 4 年度購入 PH-89		海のうた 1950 (昭和 25) 45.0×55.0 右下に署名 平成 8 年度移管 PH-180		動物たち 1951 (昭和 26) 45.4×55.4 署名なし 昭和 54 年度購入 PH-10	
題不明 1939 (昭和 14) 25.4×30.4 署名なし 平成 7 年度購入 PH-117		あたま 1950 (昭和 25) 29.4×23.7 中央下に署名 平成 8 年度寄贈 PH-179		窓辺 1951 (昭和 26) 52.3×40.5 署名なし 昭和 54 年度購入 PH-8	
ビルの谷間 1950 (昭和 25) 45.5×56.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-36		深夜の街 1950 (昭和 25) 27.1×22.2 右下に署名 平成 8 年度寄贈 PH-178		廻轉盤 1951 (昭和 26) 44.3×54.9 左下に署名 昭和 46 年度購入 PH-2	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。

		<p>人々                      1951 (昭和 26)                      22.6×27.6                      署名なし                      昭和 56 年度寄贈                      PH-24</p>		<p>散歩                      1951 (昭和 26)                      53.0×40.5                      署名なし                      平成 8 年度移管                      PH-197</p>	
<p>窓のプロフィル                      1951 (昭和 26)                      55.1×44.8                      署名なし                      昭和 56 年度寄贈                      PH-25</p>		<p>作品                      1951 (昭和 26)                      27.8×22.7                      署名なし                      平成 4 年度購入                      PH-85</p>		<p>仲間                      1952 (昭和 27)                      26.8×36.7                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-44</p>	
<p>作品                      1951 (昭和 26)                      24.2×27.9                      署名なし                      平成 4 年度購入                      PH-86</p>		<p>森の中                      1951 (昭和 26)                      51.3×41.4                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-37</p>		<p>水面                      1952 (昭和 27)                      51.1×40.9                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-42</p>	
<p>タベの月                      1951 (昭和 26)                      45.0×54.5                      署名なし                      昭和 54 年度購入                      PH-11</p>		<p>愛                      1951 (昭和 26)                      54.1×43.5                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-39</p>		<p>友達                      1952 (昭和 27)                      45.6×56.0                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-41</p>	
<p>よろこび                      1951 (昭和 26)                      21.7×26.9                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-69</p>		<p>建築場                      1951 (昭和 26)                      22.5×27.5                      署名なし                      平成 8 年度移管                      PH-185</p>		<p>タベ                      1952 (昭和 27)                      43.9×53.5                      署名なし                      昭和 54 年度購入                      PH-9</p>	
<p>会話                      1951 (昭和 26)                      30.0×25.2                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-68</p>		<p>セレナード                      1951 (昭和 26)                      28.0×22.6                      署名なし                      平成 7 年度寄贈                      PH-139</p>		<p>希望                      1952 (昭和 27)                      53.3×43.7                      署名なし                      昭和 54 年度購入                      PH-7</p>	
<p>街灯                      1951 (昭和 26)                      28.0×24.2                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-67</p>		<p>愛                      1951 (昭和 26)                      51.3×35.2                      署名なし                      平成 7 年度寄贈                      PH-132</p>		<p>たそがれ                      1952 (昭和 27)                      26.9×21.8                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-66</p>	
<p>窓                      1951 (昭和 26)                      21.7×20.0                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-65</p>		<p>作品                      1951 (昭和 26)                      23.4×19.4                      署名なし                      平成 4 年度購入                      PH-101</p>		<p>波と女                      1952 (昭和 27)                      23.6×18.2                      署名なし                      平成 7 年度寄贈                      PH-133</p>	
<p>芝居                      1951 (昭和 26)                      46.6×56.1                      署名なし                      昭和 60 年度購入                      PH-40</p>		<p>作品                      1951 (昭和 26)                      25.8×21.7                      署名なし                      平成 4 年度購入                      PH-97</p>		<p>作品                      1952 (昭和 27)                      25.3×20.2                      署名なし                      平成 4 年度購入                      PH-103</p>	

# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。

		題不明 1953 (昭和 28) 27.0×22.0 署名なし 平成 7 年度寄贈 PH-138		鳥の仲間 1954 (昭和 29) 28.1×22.7 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-28	
女 1952 (昭和 27) 27.5×22.5 署名なし 昭和 46 年度購入 PH-3		散歩 1953 (昭和 28) 34.9×26.9 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-46		サーカス 1954 (昭和 29) 27.8×22.4 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-27	
小鳥 1953 (昭和 28) 25.2×20.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-71		作品 1953 (昭和 28) 28.5×23.7 署名なし 平成 4 年度購入 PH-90		街 1954 (昭和 29) 23.9×19.9 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-30	
子供 1953 (昭和 28) 29.5×21.1 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-70		ダンス 1953 (昭和 28) 29.3×23.2 署名なし 平成 8 年度移管 PH-209		春 1954 (昭和 29) 53.2×42.4 署名なし 昭和 46 年度購入 PH-5	
ダンス (A) 1953 (昭和 28) 35.5×28.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-48		あそび 1953-55 (昭和 28-30) 20.1×25.4 署名なし 平成 8 年度移管 PH-203		お化粧 1954 (昭和 29) 35.5×28.0 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-51	
あそび 1953 (昭和 28) 28.0×35.5 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-47		遊園地 1954 (昭和 29) 35.4×27.9 署名なし 昭和 46 年度購入 PH-4		マスク 1954 (昭和 29) 40.1×27.6 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-54	
シルク 1953 (昭和 28) 35.4×26.7 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-45		不思議な期待 1954 (昭和 29) 39.4×27.4 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-50		シグナル 1954 (昭和 29) 40.0×27.5 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-53	
おどり 1953 (昭和 28) 25.5×20.3 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-26		小さなスフィンクス 1954 (昭和 29) 39.7×27.7 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-49		よろこび 1954 (昭和 29) 40.0×27.8 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-52	
作品 B 1953 (昭和 28) 32.7×24.4 署名なし 昭和 56 年度寄贈 PH-23		恋人 1954 (昭和 29) 16.6×25.2 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-29		火の見の上で 1954 (昭和 29) 40.2×27.6 署名なし 昭和 60 年度購入 PH-55	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。

		木馬 制作年不明 51.0×40.0 右下に署名 平成8年度移管 PH-182		乙女は顔に手をあてる 制作年不明 26.0×20.0 署名なし 平成8年度移管 PH-183	
作品 1956(昭和31) 28.2×22.7 署名なし 平成4年度購入 PH-93		バレエ 制作年不明 25.3×15.1 署名なし 平成7年度寄贈 PH-137		街で立っている女 制作年不明 27.5×22.0 署名なし 平成8年度移管 PH-184	
水の時間 1958(昭和33) 25.0×30.0 署名なし 平成8年度移管 PH-181		鳥と魚 制作年不明 26.7×19.9 署名なし 平成8年度移管 PH-204		会話 制作年不明 26.7×22.1 署名なし 平成10年度寄贈 PH-211	
馬 1958(昭和33) 27.1×21.1 右下に署名 平成7年度寄贈 PH-136		子供 制作年不明 25.5×20.2 署名なし 平成8年度移管 PH-201		バレリーナ 制作年不明 27.0×21.5 署名なし 平成8年度移管 PH-206	
多摩園 制作年不明 55.5×41.0 署名なし 平成8年度移管 PH-187		自転車にのる女 制作年不明 27.1×21.8 署名なし 平成8年度移管 PH-207		夕暮れ 制作年不明 27.9×22.8 署名なし 平成8年度移管 PH-210	
題不明 制作年不明 30.1×18.8 署名なし 昭和60年度購入 PH-56		題不明 制作年不明 29.2×24.5 署名なし 平成7年度寄贈 PH-142		題不明 制作年不明 25.5×20.2 署名なし 平成8年度移管 PH-186	
題不明 制作年不明 26.8×22.6 署名なし 平成7年度購入 PH-109		題不明 制作年不明 30.4×25.4 署名なし 平成7年度購入 PH-114		飛ぶ 制作年不明 45.9×56.2 署名なし 昭和60年度購入 PH-43	
ポートレイト 制作年不明 27.2×22.0 中央下に署名 平成8年度移管 PH-198		ピン・コップ 制作年不明 40.5×51.0 署名なし 平成7年度購入 PH-119		ふくろう 制作年不明 28.3×22.6 署名なし 平成8年度移管 PH-208	
バレエ 制作年不明 28.0×22.6 署名なし 平成8年度移管 PH-200		鳥の親子 制作年不明 22.2×26.1 署名なし 平成8年度移管 PH-202		題不明 制作年不明 25.5×20.1 署名なし 平成7年度寄贈 PH-135	



# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集収録の作品。

		題不明 制作年不明 25.4×30.4 署名なし 平成7年度購入 PH-113		題不明 制作年不明 11.9×16.0 署名なし 平成7年度寄贈 PH-127	
子供達と犬 制作年不明 20.1×25.5 署名なし 平成8年度移管 PH-205		題不明 制作年不明 30.4×25.3 署名なし 平成7年度購入 PH-116		題不明 制作年不明 25.2×20.2 署名なし 平成7年度寄贈 PH-128	
題不明 制作年不明 27.8×21.8 署名なし 平成7年度寄贈 PH-134		題不明 制作年不明 25.4×30.4 署名なし 平成7年度購入 PH-118		題不明 制作年不明 20.2×25.3 署名なし 平成7年度寄贈 PH-129	
題不明 制作年不明 30.5×25.5 署名なし 平成10年度寄贈 PH-212		題不明 制作年不明 20.3×11.9 署名なし 平成7年度寄贈 PH-121		「瑛九展記念フォト・デッサン」1 芝居 ●1950（昭和25） 44.2×52.5 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-12 ★	
作品 制作年不明 25.2×30.4 署名なし 平成4年度購入 PH-84		題不明 制作年不明 23.3×29.0 署名なし 平成7年度寄贈 PH-122		「瑛九展記念フォト・デッサン」2 家・窓・人 ●1950（昭和25） 42.5×51.2 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-13 ★	
題不明 制作年不明 28.0×22.7 署名なし 平成7年度購入 PH-115		題不明 制作年不明 24.2×19.9 署名なし 平成7年度寄贈 PH-123		「瑛九展記念フォト・デッサン」3 Visitors to a Ballet Performance ●1950（昭和25） 44.3×54.2 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-14 ★	
題不明 制作年不明 25.4×20.2 署名なし 平成7年度購入 PH-110		題不明 制作年不明 20.2×25.2 署名なし 平成7年度寄贈 PH-124		「瑛九展記念フォト・デッサン」4 鼻高プロフィール ●1950（昭和25） 45.0×54.7 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-15 ★	
題不明 制作年不明 30.2×25.5 署名なし 平成7年度購入 PH-111		題不明 制作年不明 20.3×25.3 署名なし 平成7年度寄贈 PH-125		「瑛九展記念フォト・デッサン」5 森のつどい ●1951（昭和26） 42.9×52.0 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-16 ★	
題不明 制作年不明 24.9×19.4 署名なし 平成7年度購入 PH-112		題不明 制作年不明 20.4×25.3 署名なし 平成7年度寄贈 PH-126		「瑛九展記念フォト・デッサン」6 庭 ●1951（昭和26） 44.1×54.0 署名なし 昭和55年度寄贈 PH-17 ★	

# 宮崎県立美術館所蔵瑛九フォト・デッサン作品

※制作年不明の作品は、末尾にまとめて配置した。  
 ※★は瑛九展記念フォト・デッサンに収録された複写。  
 ◇はフォト・デッサン集「真昼の夢」収録の作品。

<p>「瑛九展記念フォト・デッサン」7 村</p> <p>●1951 (昭和 26) 42.3×52.0 署名なし 昭和 55 年度寄贈 PH-18 ★</p>		<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」5 会話</p> <p>●1951 (昭和 26) 11.0×14.0 署名なし 平成 8 年度移管 PH-192 ◇</p>		<p>セロハンにペンで描画</p>	
<p>「瑛九展記念フォト・デッサン」8 子供の部屋</p> <p>●1952 (昭和 27) 40.2×49.7 署名なし 昭和 55 年度寄贈 PH-19 ★</p>		<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」6 秋のソナタ</p> <p>●1950 (昭和 25) 14.1×11.2 署名なし 平成 8 年度移管 PH-193 ◇</p>		<p>フォト・デッサンを切り抜き</p>	
<p>「瑛九展記念フォト・デッサン」9 コンポジション</p> <p>●1954 (昭和 29) 35.6×42.7 署名なし 昭和 55 年度寄贈 PH-20 ★</p>		<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」7 食卓</p> <p>●1950 (昭和 25) 11.0×13.3 署名なし 平成 8 年度移管 PH-194 ◇</p>		<p>「火の見の上で」 型紙</p> <p>フォト・デッサンの切り抜き</p>	
<p>「瑛九展記念フォト・デッサン」10 ビルの人</p> <p>●1954 (昭和 29) 43.5×34.1 署名なし 昭和 55 年度寄贈 PH-21 ★</p>		<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」8 眠りの中の白い馬</p> <p>●1951 (昭和 26) 11.1×14.0 署名なし 平成 8 年度移管 PH-195 ◇</p>		<p>「海の中」(1954 年作・ ときの忘れもの所蔵) の型紙</p> <p>フォト・デッサンを切り抜き・セロハンに描画</p>	
<p>「瑛九と仲間たち」 手鏡を持つ女 1984 (昭和 59) 複製 ●1950 (昭和 25) 30.1×23.4 署名なし 平成 7 年度寄贈 PH-130</p>		<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」9 丘の歴史</p> <p>●1951 (昭和 26) 11.0×13.9 署名なし 平成 8 年度移管 PH-196 ◇</p>		<p>「小さなスフィンクス」 型紙</p> <p>ボール紙を切り抜き</p>	
<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」1 散歩</p> <p>●1951 (昭和 26) 10.9×13.8 署名なし 平成 8 年度移管 PH-188 ◇</p>		<p>「子供の部屋」 型紙</p> <p>フォト・デッサンを切り抜き</p>		<p>フォト・デッサンの切り抜き</p>	
<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」2 迴轉盤</p> <p>●1951 (昭和 26) 10.6×14.1 署名なし 平成 8 年度移管 PH-189 ◇</p>		<p>フォト・デッサンの切り抜き</p>		<p>フォト・デッサンの切り抜き</p>	
<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」3 夜の子供たち</p> <p>●1951 (昭和 26) 11.1×14.1 署名なし 平成 8 年度移管 PH-190 ◇</p>		<p>セロハンにペンで描画</p>		<p>「自転車」(福岡市美術館蔵)の型紙</p> <p>フォト・デッサンを切り抜き・セロハン接着 セロハン部描画あり</p>	
<p>瑛九フォトデッサン作品集 「真昼の夢」4 かえろ、かえろ</p> <p>●1951 (昭和 26) 10.9×13.5 署名なし 平成 8 年度移管 PH-191 ◇</p>		<p>フォト・デッサンの切り抜き</p>		<p>「ポートレイト」 型紙</p> <p>ボール紙の切り抜き スパッタリング使用 跡あり</p>	



別表3 私家版瑛九銅版画写真集一覧

番号	題名	制作年	限定	大きさ	原版	宮崎県立美術館	林グラフィックス版	南天子画廊	備考
1	猫	1951	6	13.2×8.2	○	P-447、P-668	IV		
2	二人	1951	5	14.8×12					
3	田園	1951	4	9.4×14.8	○	P-448、P-667	IV		
4	鳥	1951	3	10.4×8.2					
5	顔	1951	4	11.4×8.5		P-625			
6	プロフィール	1951	3	12×9					
7	愛	1951	2	11.8×8.5		P-628			
8	裸婦	1951	8	11.8×14.8	○	P-457	IV		
9	人魚	1951	5	11.8×9	○	P-465、P-663	IV		
10	おとぎの国	1951	4	12.8×7.8	○				
11	楽園	1951	記載なし	13×12	○	P-22、P-64		○	
12	労働者	1951	記載なし	14.4×10.6	○	P-477	IV		
13	群像	1951	3	17.8×19					
14	夢	1951	記載なし	23.6×18	○	P-18		○	※南天子目録には1952年作と記載
15	自転車	1951	5	12×18	○	P-669			
16	あこがれ	1951	記載なし	12.6×14.8	○	P-293	III		
17	森の中	1951	4	13×14.4	○	P-454	IV		
18	木	1951	記載なし	12.4×9.6	○	P-476	IV		
19	眼	1951	30	20.6×15.4	○	P-247、P-754、P-1063	II		※P-1063は版画集収録のもの
20	嵐	1951	3	21×13.4	○	P-296	III		
21	あくま	1951	5	21×15	○	P-248	II		
22	休日	1951	5	23.6×18	○	P-16、P-63		○	※南天子画廊目録には1952年作と記載
23	悲しみ	1951	4	13×17.8	○	P-297	III		
24	イヴ	1952	6	10×6		P-645			
25	裏窓	1952	3	23×11.8					
26	道	1952	記載なし	18×11.8	○	P-15、P-1053		○	
27	海の中	1952	5	9×7.5	○	P-495、P-648	IV		
28	散歩A	1952	6	18×13.4	○	P-34		○	※同じ図柄だがP-1047は裏書きにより「幸福なる家庭」として
29	牛	1952	10	13×7.8	○	P-488	IV		いる。
30	ヴァイオリン	1952	25	18×12	○	P-26、P-749、P-1062		○	※P-1062は版画集収録のもの
31	鳥の精	1952	8	12×9	○	P-1054	IV		
32	枝	1952	記載なし	23.6×18	○	P-249	II		※『SCALE』目録には加工後を掲載
33	愛情	1952	記載なし	11.8×9	○	P-478	IV		
34	少女A	1952	記載なし	12×7	○	P-498	IV		
35	花園	1952	10	11×13		P-626			
36	人魚の群	1952	10	11×7.6	○	P-485、P-670	IV		※『SCALE』目録には「人魚の群れ」と記載。
37	少女の夢	1952	6	13×5	○	P-487	IV		
38	家族	1952	記載なし	18×12	○	P-32		○	※南天子画廊目録には1953年作と記載
39	バレエ	1952	記載なし	17.6×12					
40	雨	1952	記載なし	14.4×7.5	○				
41	鳥の眼	1952	記載なし	21×13	○	P-21		○	※南天子画廊目録には「鳥の目」と記載
42	狂人	1952	記載なし	18×11.6	○		III		
43	森の小人	1952	5	14.2×10	○	P-65、P-490	IV		
44	少女B	1952	記載なし	24×18	○	P-27、P-633		○	※南天子画廊目録には「少女」と記載 当館は「少女(B)」で登録
45	小人魚	1952	3	10.8×7.2	○	P-479、P-750	IV		
46	愛の家	1952	記載なし	9×10.4	○	P-24、P-637		○	※南天子画廊目録には1951年作と記載
47	花	1952	3	10×9	○	P-494、P-651	IV		
48	恋人達	1952	記載なし	10.4×7.4					
49	夢の精	1952	2	11.8×7.8	○		III		
50	ダンス	1952	記載なし	12×7					
51	背中合せ	1952	25	14.6×13	○	P-298、P-1061	III		※P-1061は版画集収録のもの
52	散歩	1952	25	17.6×12	○	P-302、P-1064	III		※P-1064は版画集収録のもの
53	街角	1953	7	18×24	○	P-259、P-639	II		
54	乱舞	1953	記載なし	23.4×18	○	P-256	II		
55	動物の仲間	1953	記載なし	23.2×18	○	P-28		○	
56	手	1953	3	24.6×18	○	P-19、P-129		○	
57	二つの顔	1953	記載なし	18×12	○	P-309、P-631	III		※『SCALE』目録には「ニツの顔」と記載 当館所蔵の作品も裏面に「○囲いで53、No.57ニツの顔」と書かれておりミヤ子夫人からの入手であるため「ツ」を採用している。
58	乙女	1953	記載なし	12×9.4	○	P-503	IV		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
59	馬	1953	記載なし	18×11.8	○	P-310	III		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
60	空想	1953	記載なし	13.2×7.6	○	P-502	IV		
61	くも	1953	記載なし	18×11.8	○	P-307	III		
62	鳥の精	1953	記載なし	18×12	○	P-312	III		



番号	題名	制作年	限定	大きさ	原版	宮崎県立美術館	林グラフィックス版	南天子画廊	備考
63	魚	1953	3	11.8×9	○	P-506	IV		
64	無我	1953	記載なし	17.8×11.6	○	P-303	III		
65	くちびる	1953	3	23.2×18	○	P-265	II		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
66	コンプレックス	1953	5?	23.4×18	○	P-254	II		※「5?」は限定番号ではなく「1953×5」と記載のため。
67	山びこ	1953	5	18×12.5		P-652			「森の中」と画像が逆? 当館所蔵の作品には裏面に「○囲いで53、No.67山びこ」と鉛筆で記載あり。ミヤ子夫人から入手したもの。
68	忘れた路	1953	10	18×23.4	○	P-268	II		※『SCALE』目録タイトル「忘れた道」
69	指	1953	記載なし	18×11.8	○	P-25、P-630		○	※南天子画廊目録には1952年作と記載
70	二人の少女	1953	記載なし	18×11.8	○	P-305	III		
71	おきな児	1953	記載なし	18×11.8	○	P-304	III		※『SCALE』目録には「おきな児 A」と記載
72	街A	1953	記載なし	18×11.8					
73	春	1953	記載なし	23.6×18	○	P-253	II		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
74	女人像	1953	記載なし	12×9	○	P-505	IV		
75	怒り	1953	2	23.2×18	○	P-264、P-642	II		
76	夢	1953	記載なし	18×11	○	P-66、P-313	III		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
77	メガフォン	1953	6	23.6×18	○	P-55、P-643		○	※南天子画廊目録には1955年作と記載 当館所蔵の作品には「○囲いで53、No.77メガフォン」と記載あり。ミヤ子夫人からの入手。
78	海辺の花	1953	5	26×23.6	○	P-266、P-1066	II		
79	家族A	1953	記載なし	18×23.2	○	P-67、P-269	II		
80	家族B	1953	25	23.8×17.8	○	P-46		○	※同図柄だがP-1048は裏に「家庭」と書いてある。
81	鳥と女	1953	3	18.2×23.4	○	P-128、P-252	II		
82	愛する二人	1953	記載なし	23.6×18	○	P-56、P-127		○	※南天子画廊目録には1955年作と記載
83	なやみ	1953	記載なし	23.2×18	○	P-258	II		
84	かぎ	1953	記載なし	23.2×18	○	P-44、P-632		○	
85	あこがれ	1953	5	23.2×18	○	P-54、P641		○	※南天子画廊目録には1954年作と記載、題名も「あこがれ」だが、当館所蔵の作品には「○囲いで53、No.85あこがれ(B)」と記載あり。横に薄く「35 あこがれ」と書いてあるが他の作品に書かれている整理法とそろえると「あこがれ(B)」となる。ミヤ子夫人からの入手。
86	オペラグラス	1953	25	23.2×18	○	P-35、P-1058		○	
87	庭園	1953	25	23.2×18	○	P-29、P-634		○	※P-1059は同図柄だが裏書きに「不安な街(2)」と記載。サインあり。
88	愛のよろこび	1953	25	23.2×18	○	P-47、P-635		○	※南天子画廊目録には1954年作と記載あり。P-1049は同図柄だが裏書きに「夕のうた」と記載
89	ドンファン	1953	25	23.2×18	○			○	※南天子画廊目録には1954年作と記載
90	さきやき	1953	記載なし	23.6×18.2	○	P-20、P-752		○	
91	街B	1953	記載なし	23.8×18	○	P-250	II		
92	顔A	1953	6	23.2×18	○	P-57		○	※南天子画廊目録には1955年作と記載
93	夢の中の動物	1953	記載なし	23.4×18	○	P-257	II		
94	男	1953	3	23.4×18	○	P-262	II		※『SCALE』目録は自然腐食バージョンとして掲載
95	海庭	1953	3	21×13.6	○	P-36、P-636		○	※南天子画廊目録には「海底」と記載 当館所蔵の作品には裏面に「○囲いで53、No.95海底」と記載
96	ポエム	1953	4	23.6×18	○	P-37		○	
97	よろこびA	1953	2	17.8×12	○	P-315	III		
98	母	1953	10	29×23.8	○	P-228、P-657	I		
99	都会	1953	3	36×23.2	○	P-229、P-1052	I		
100	過去	1953	2	36.4×26.8	○	P-225	I		
101	ゴーストツブ	1953	3	36.2×26.4	×				原版なし。印刷後さらに加工し145の「シグナルA」になった。その後原版を切っている。
102	顔B	1953	5	27×36	○	P-233	I		
103	小さなバレリーナ	1953	2	23.6×27	○	P-260、P-659、P-1065	II		
104	森の会話	1953	1	37.4×27	○	P-227	I		
105	天女	1953	1	36.2×26.4	○	P-230、P-677	I		
106	あくまのおどり	1953	1	36.2×26.8	○	P-226、P-658、P-1068	I		
107	くちびる	1953	3	36×26.4	○	P-232、P-678	I		
108	おこれる鳥	1953	3	36×23.2	○	P-231、P-1051	I		
109	トンボ	1954	2	9×7.5	○	P-388	V		
110	子供たちA	1954	2	13×10.3	○	P-384	V		
111	黒い世界	1954	1	9×10.2	○	P-389	V		
112	光	1954	1	10.4×9	○	P-387	V		
113	いたづら	1954	2	18×12	○	P-52、P-655		○	※南天子画廊目録には1956年作と記載、「いたづら」と記載されているが、当館所蔵の作品は裏面に「○囲いで54、No.113いたづら」と記載。ミヤ子夫人からの入手。
114	フォルム	1954	1	12×9	○		V		※原版なし ※「フォルム」
115	シルク	1954	3	9×5.8	○	P-392	V		

番号	題名	制作年	限定	大きさ	原版	宮崎県立美術館	林グラフィックス版	南天子画廊	備考
116	腕	1954	記載なし	18×11.8					
117	魚の夢	1954	1	12×9	○	P-390	V		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
118	女A	1954	2	18×11.6	○	P-316	III		
119	春	1954	1	18×11.2					
120	スフィンクス	1954	4	17.6×11.8	○	P-317、P-542	III		※P-542は版画集収録のもの
121	欲望	1954	記載なし	11.8×17.8	○	P-314	III		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
122	カメラ	1954	3	17.8×12	○	P-320	III		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
123	苦悩	1954	3	28.6×23.6	○	P-239、P-662、P-1070	I		
124	森の二人	1954	4	23.6×18	○	P-273	II		
125	音楽	1954	記載なし	23.6×18.4	○	P-38		○	※南天子画廊目録には1953年作と記載
126	よろこびB	1954	記載なし	23.2×18	○	P-45		○	※南天子画廊目録には1953年作と記載
127	影	1954	2	23.2×18	○	P-281	II		
128	流れの中のプロフィール	1954	記載なし	23.6×18	○	P-280	II		
129	風	1954	記載なし	23.2×18.2	○	P-49		○	
130	航海	1954	2	23.8×18	○	P-271	II		※『SCALE』目録には自然腐食バージョンとして掲載
131	空間	1954	2	23.4×18	○	P-277	II		
132	楽士	1954	記載なし	23.4×18	○	P-270	II		※『SCALE』目録には自然腐食バージョンとして掲載
133	魔魚	1954	2	23.6×18	○	P-275、P-1046	II		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
134	女B	1954	3	23.4×18	○	P-70、P-278	II		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
135	自然	1954	2	23.4×18	○	P-279、P-638	II		
136	子供たちB	1954	2	18×11.8		P-69			※当館所蔵の作品には裏面に「○囲いで54、No.136子供たち(B)」と記載。ミヤ子夫人からの入手。
137	恋人	1954	1	11.8×9	○	P-385	V		
138	花	1954	1	23.4×18	○	P-272	II		※『SCALE』目録には加工後バージョン掲載
139	円	1954	1	23.4×18	○	P-42、P-68		○	※南天子画廊目録は1956年作と記載
140	夜の道	1954	2	11.8×12	○	P-386	V		
141	遊園地	1954	2	18.2×11.8	○	P-321、P-644	III		
142	海底	1954	2	18×11.8	○	P-319	III		
143	筒	1954	2	23.2×18.2	○	P-276	II		※P-1058は同図柄だが裏書きに「都会の正午」と記載。制作年も1953年作となっているが、これはサイン及び年記から。
144	いじわる	1954	1	36×26.8	○	P-240、P-1071	I		
145	シグナルA	1954	2	36.2×26.8	×				原版なし。カットしている。
146	小さな人魚	1954	2	36.2×26.4	○	P-237、P-660、P-1069	I		
147	叫び	1954	2	36.2×27	○	P-236	I		
148	話しする木	1954	2	36.2×23.4	○	P-241、P-1072	I		
149	人魚の恋	1954	5	23.6×31	○	P-242	I		
150	指の物語り	1954	3	23.4×27	○	P-274、P-1067	II		※『SCALE』目録には「指の物語」と記載
151	いかり	1955	2	8.8×7.8					※SCALE IIのNo.64いかりは別の図柄。この原版はある。
152	別れ	1955	3	7.4×6	○	P-394、P-665	V		
153	海岸	1955	2	11.4×9	○	P-397	V		
154	足	1955	1	12×10.6					
155	波のたわむれ	1955	1	18×11.8	○	P-13		○	※南天子画廊目録には1955年作と記載
156	泳ぐ	1955	2	12×9	○	P-401	V		
157	潜水夫の恋	1955	2	9.2×7.8	○		IV		
158	会話	1955	2	11.8×9	○	P-402	V		
159	河の女神	1955	2	9×6	○	P-393、P-666	V		
160	ひるね	1955	1	12×9	○	P-399	V		
161	日曜日	1955	2	12×9	○	P-400	V		
162	指の目	1955	5	23.4×18	○	P-58、P-640		○	
163	ひまわり	1955	8	23.4×18	○	P-51、P-751		○	
164	林の目	1955	5	24.8×18	○	P-23、P-130		○	※南天子画廊目録には1953年作と記載
165	シグナルB	1955	5	23.6×18	○	P-50、P-71		○	※後刷りは逆さま。町田市立国際版画美術館の同作品はサインがあるためそれに準拠して天地を決める。
166	誘惑	1955	4	23.6×18	○	P-59		○	
167	鳥のおどり	1955	3	17.8×12	○	P-41		○	※南天子画廊目録には「鳥の踊り」と記載
168	海の上のよろこび	1955	3	15×12	○	P-398	V		
169	グライダー	1955	5	23.2×18	○	P-283	II		
170	かがみ	1955	2	23.2×18	○	P-284	II		
171	海	1955	3	10.6×6.8					
172	かぎ	1956	1	22.6×16	○	P-327	III		
173	かべ	1956	2	18×12	○	P-61		○	※南天子画廊目録には1958年作と記載
174	落書	1956	2	18×12					
175	鳥	1956	1	18×12	○	P-325	III		
176	愛のシグナル	1956	3	18×12					
177	人形	1956	3	18×12	○	P-131、P-324	III		
178	白い輪	1956	2	12×9	○	P-408、P-646	V		※114「フォルム」に加筆
179	愛のささやき	1956	2	17.8×10.8	○	P-331、P-647	III		
180	プロポーズ	1956	2	12×9	○	P-403	V		

番号	題名	制作年	限定	大きさ	原版	宮崎県立美術館	林グラフィックズ版	南天子画廊	備考
181	夜空	1956	2	18×12	○	P-328、P-654、P-947	Ⅲ		原版裏面「駄々っ子」
182	二人	1956	2	12×9	○	P-404	V		
183	風の中	1956	50	10.8×9.2	○	P-423、P-623	V		
184	月夜のあそび	1956	50	11.8×9.2	○	P-421	V		
185	波のたわむれ	1956	5	12×9	○	P-411	V		
186	愛の鳥	1956	5	15×9	○	P-416、P-647	V		※P-647は詩集に収録のもの
187	指	1956	5	10.8×9	○	P-407	V		
188	子供の夢	1956	5	12×9					久保貞次郎編「瑛九画集」限定特製版収録。
189	乙女	1956	5	12×7.4	○	P-424	V		
190	湖の花	1956	1	11×18	○	P-332	Ⅲ		
191	かわいい子	1956	2	9.2×7.4	○	P-405	V		
192	鳥の家	1956	1	11.8×9.2	○	P-413、P-656	V		
193	木かげ	1956	2	12×10	○	P-422	V		
194	プロフィール	1956	2	9×6	○	P-415、P-649	V		
195	なまけもの	1956	2	5.8×9	○	P-414	V		
196	鳥のあそび	1956	3	15×8.8	○	P-425	V		
197	一人ぼっち	1956	2	18×11.8					※カットされているため原版なし
198	白サギ	1956	10	23.6×18	○	P-60、P-72、P-1835		○	※南天子画廊目録には1955年作と記載
199	サーカス	1956	3	18×11.8		P-620			
200	森の家	1956	1	18×12.8	○	P-311	Ⅲ		「山びこ」と画像が逆
201	神話	1956	2	14.4×11	○	P-412	V		
202	パラシュート	1956	2	11.8×9	○	P-410	V		「パラシュート」
203	迷い道	1956	2	11.8×9	○	P-420、P-671	V		
204	白い道	1956	1	23.4×18					※画像のみⅢに掲載。原版はカットされていない。一部が「なぞ」に加工されている。
205	たたかい	1956	2	23.6×36	○	P-245	I		
206	都会	1957	1	18×11.8	○	P-340	Ⅲ		
207	リズム	1957	1	18×11.8	○	P-341	Ⅲ		
208	黒い線	1957	1	18×11.8	○	P-336	Ⅲ		
209	雲	1957	2	18×12.6	○	P-339、P-661	Ⅲ		
210	秋の河	1957	1	18×12	○	P-344、P-621	Ⅲ		
211	群魚	1957	2	10.8×10.6	○	P-427	V		
212	風と花	1957	1	17.6×12	○	P-342	Ⅲ		
213	風の日	1957	1	18×11.8	○	P-337	Ⅲ		※「SCALE」目録には「風の眼」と記載。加工後のものと並べて記載
214	目	1957	1	18×11.8	○	P-338、P-650	Ⅲ		
215	建設	1957	1	18×11.8	○	P-291	Ⅱ		
216	風車	1957	1	23.4×18	○	P-53		○	
217	クロス	1957	1	18×12					
218	夜の鳥	1957	1	23.6×18	○	P-288	Ⅱ		
219	雲の花 A	1958	100	9×7.2	○	P-442、P-664	V		※「SCALE」目録のタイトルは「雲の花」だが、P-664の裏面に「○囲いで58、雲の花(4)」とある。
220	森の精	1958	100	10.8×9	○	P-443	V		
221	くもり日	1958	2	10.4×5.8	○	P-435	V		
222	貝	1958	5	7.4×10.8	○	P-431、P-624	V		
223	雲の花 B	1958	3	10.8×9	○	P-33、P-627		○	※南天子画廊目録にはサイズが18×23.7と記載。当館所蔵のもの及び後刷りは「雲の花(B)」と記載
224	虫	1958	2	10.6×7.5	○	P-434	V		※画像天地逆
225	線の乱舞	1958	3	11.8×9.2	○	P-432、P-622	V		
226	風景A	1958	2	13.6×8.4	○	P-62		○	※南天子画廊目録の画像が逆さま
227	森の小径	1958	1	13.4×9	○	P-438	V		
228	風景B	1958	1	13.4×11	○	P-437	V		
229	街の目	1958	1	13.4×10.4	○	P-436	V		



別表4 2019 (平成 31/ 令和元) 年収蔵玖アトリエ資料 (部分)

種類	タイトル他	形状、そのほか	内容
アルバム	ミヤ子夫人19歳頃～	台紙に貼るタイプ	ミヤ子夫人の10代から20代くらいまでの写真が主。姉などと写っているものが多い。マジックで直接年齢等書いてある。
アルバム	ミヤ子夫人その他瑛九も	台紙に貼るタイプ	だいふ外されているが、ミヤ子夫人の独身の頃と結婚後の写真。
アルバム (リバーサル)	福井油彩画集	赤のカバー、リング式、スリッパ台紙 (リングの留め具が緩)	所蔵一覧表及び各油彩の画像
書類	観喺からの封筒に様々な切り抜きなど	封書の消印53.10.12 宛名杉田都様 面に観喺の住所印	私信：細江、木水、魚津などからの手紙 (書簡封筒ごと) 魚津章夫：杉田都様宛 54.3.29東京中央消印3/31着と赤マジックで記載 雑文第1の90号 昭和54年4月18日付け 瑛九展開催委員会開催委員長 木水育男殿 文化庁次長 吉久勝美 文化庁後援名義使用について (回答) 後援の許諾 (昭和54年6月8～20日) 写しと事後報告書の記載内容指示用紙、「瑛九展」に対する文化庁後援についての副申 (宮崎県教育長 四本茂から文化庁長官 犬丸直宛) 木水育男から文化庁長官宛て後援名義使用許可申請及び実施要項、収支予算書 (資料添付として個展及び出品のある展覧会歴、刊行書籍) メモ (東京で魚津さんからいただいて帰ったパンフレットの中の軸の一部訂正してPR用としてコピーしたものです。) がついた「瑛九展開催のご案内」、宮崎地区の出品目録 (所蔵者情報あり) 細江英公：杉田都様宛 79.3.13消印新宿 観喺のサイン入り便せん (都様12点分のコピー送ります。先日はEQ氏の作品やおみやげやらいただいてほんとうにきょうしゅでした。ありがとうございます。私は10月19日アメリカへ行きます。6月のEQ展にはまにあうように帰ってくるつもりです。おからだにおきをつけください。用件のみにてLove Ay-o) 日付Dec.11.78 細江英公の手紙 (杉田都宛) (前略 昨日は遅くまでお邪魔までございました。早速ですが、本日魚津氏に出品目録を渡しました。昨日の計算では33点でしたが、正確には34点でした。うち一点は飛び出品作以外のうちからポートフォリオ作成のためつけ加えたものでした。用件のみにて失礼します。) 日付79年3/12 フォトデッサン出品目録 (原型8点含む) 木水育男：杉田都さま 赤マジックで4月23日着 54年4月19日の消印 (便せん6枚ものを送ったことのお礼とお願い。瑛九のカタログを作るにあたって特装版を作り、そのために銅版画の原板を貸して欲しいとの内容) 54.5.19付け杉田都宛て：5月21日着と赤マジック B4原稿用紙3枚) 瑛九展開催委員会 (杉田都様 開催状) 封筒なし：出品作品目録 (小田急デパート出品作エッチング7点※同じものが4枚コピー、細江が作ったフォト・デッサン出品目録※別の封書にも入っていたもの、油彩他目録※所蔵者情報入り)
書類	裁判証人調査 特別送達	夫人宛封筒、名古屋地裁民事第3部	名古屋地裁からの問合せ
写真立て	ミヤ子夫人 (アトリエ前) 遺影用	アクリル板に挟めてビスで止めるタイプ	鈴木さんがプリントして遺骨の側に飾っていたものと同じ。鈴木さん提供。
写真立て	瑛九 (アトリエ) 神棚にあったもの	小さな水色のはめ込み式	瑛九の写真、顔のサイズはあっていない。汚れが目立つ。
書籍	鈴木素直詩集「夏日」	箱あり (タイトル等シール)、ハトロン紙でカバー、布張り表紙、エンボス加工	鈴木素直氏の第1詩集。謹呈本。宮崎で出版 (鈺版社)、装幀は宮崎在住のイラストレーター生頼範義、カットは瑛九ともつながりがあった伊東地。目次裏にA・U・Q・Eiへと記載 (イニシャルは併記) 1979年6月10日発行
広報紙	広報 うらわ No.581 2000年4月	2つ折り縦じなし挟み込み冊子	特集：平成12年度予算の概要 裏表紙に作品掲載：「春」1959年うらわ美術館蔵 ようこそ美術の森へのコーナー 4月29日から開催の「浦和画家とその時代」展で見ることができますと記載あり。31ページ「アートdeうらわ」4月29日 (土・祝) 10時うらわ美術館は開館します (コラムあり) 写真：瑛九 (湯浅撮影) 開催記念展！「浦和画家とその時代」寺内萬治郎・瑛九・高田誠を中心に」4月29日～6月18日 観覧料：一般600円、大高生400円、小中生200円
雑誌	FS(FIKUOKA STYLE)Vol.29	右無線綴じ 定価=1714円+税	【特集】美術館へ行くこう 九州・沖縄美術館めぐり 42ページ宮崎県立美術館掲載 画像：ロッソ「病める子」、ピカソ「肘かけ椅子のベルベット帽の女と鳩」、池田満寿夫「青い椅子」、瑛九「田園B」 わたなべかずひろによる紹介文 そのほかの掲載：個人美術館散歩 (織田廣瀬、野口彌太郎、北村西望、朝倉文夫、宇治山哲平、坂本善三、吉井晋二、中村晋也) 89ページアートを体験する子供たち 瑛九の作品展示風景写真 (「瑛九のヒミツ展」開催時の福岡市美術館のもの) 94ページに宮崎県立美術館情報
アルバム	魂の叙情詩 瑛九展	アルバム (ポケット)	平成8年4月27日 宮崎県立美術館 (美術館作成→ミヤ子夫人へ送付?) 展示風景 (87年4月15日) 開会式の様子 (ミヤ子夫人、黒木淳吉氏、富松昇氏など) シンポジウム (県立芸術劇場：講演一池田満寿夫「瑛九とわたし」、シンポジウムテーマ「瑛九の芸術」細江英公、帯金章郎、加藤正、三木多聞、池田満寿夫、矢野静明)、監視員とミヤ子夫人、UMKと思われるTVクルーとアトリエのミヤ子夫人 (恐らく弥助さん)、玉井さんとTVクルー、ミヤ子さんと加藤正、宴席のミヤ子夫人 (鈴木素直、富松昇、黒木淳吉など)
書籍	NHK日曜美術館第10集	右有線綴じノリ止めカバーあり学研	表紙に項目あり「私と鈴木清方 (藤浦富太郎)、私と瑛九 (池田満寿夫)、私と浅井忠 (津田周平)、私と中村彝 (鈴木良二)、私とマヤ遺跡 (利根山光人)、私とエルンスト (小原豊雲)、私とレンブラント (栗原福也)」掲載作品：上から中村彝「エロシニコ氏の像」1920年油彩、瑛九「ふるさとの木」1957年リトグラフ、マヤ遺跡「翡翠の仮面」7世紀末、左上：鈴木清方「薬地明石町」1927年絹本着彩、エルンスト「都市の全景」1935年～36年油彩 ・テレビ対談 司会 河路勝・太田治子 「私と瑛九」版画家・池田満寿夫、構成：八田昭男 掲載作品：「眼」1953年油彩、「多摩川園」1936年フォト・デッサン、「ザメンホフ像」1934年、「妹の像」1934～35年頃、「花」1935年、「宮崎風景」1942年いずれも油彩、カラー図版、「海」1951年、「Spring」[真昼の汽車] 1950年、「自転車」1954年「生活」1950年いずれもフォト・デッサン、「通信博物館」1941年油彩、モノクロ図版、「蝶と少女」1950年、「空の目」1957年油彩カラー図版、池田満寿夫スケッチ「瑛九肖像」、「白サギ」1956年、「画像」1953年、「波」1953年、「別れ (母)」1953年※泉美では「母」、「自転車」1955年、いずれもエッチング、池田満寿夫「三人の女」「鳥と女」いずれも1960年、エッチング、「ふるさとの木」リトグラフ※モノクロ図版、「赤い風船」1957年リトグラフ※モノクロ、「旅人」1957年、「森のドラマ」1957年、「夢の会話」1956年、「花と少女」1957年いずれもカラー図版、リトグラフ、「月」1957年、「丸のあそび」※横位置掲載1958年、「丸(1)」1958年、「丸(2)」1958年※モノクロ版、「流れ」1958年、「激流」1959年、「つばさ」1959年カラー図版油彩、写真：アトリエでの瑛九 (湯浅撮影?)、宮崎市にある瑛九の生家、故郷、大淀川の景観、美術散歩のコーナーに宮崎県総合博物館、ある日の瑛九と都夫人、掲載文章：「純真な魂」杉田都
書籍	根の会第一句集 根	カバー付 口絵に瑛九リトグラフ作品「ふるさとの木」和紙付 右綴じ	瑛九の兄、杉田正臣 (俳諧の雅号は井蛙) 主宰の句会「根の会」の第1句集。鈺版社。ミヤ子夫人宛のはがきにはさんである。「漸く春近しの感ですが未だ三寒四温ですな おかげさまで元気で九州俳句層雲大会を完了してホッとしています 大会を記念して同封の句集「根」を出しましたので御覧下さい 瑛九の遺作「ふるさとの木」が助けてくれました お大事に 来年は宮崎でエスブレラント九州大会です 杉田井蛙 杉田都様 昭和56年3月9日 昭和55年発行
カタログ	戦後日本美術の展開 抽象表現の多様化	2つ折り中央ホチキス止め2箇所 (ホチキス部分錆あり)	東京国立近代美術館 1973年6月12日～7月29日 案内はがき未使用2枚、招待券2枚挟み込み 表紙：瑛九「午後 (虫の不在)」部分 出品目録：第1章戦前からの継承および具象から抽象への移行 14瑛九「赤い輪」1954「午後 (虫の不在)」1958 図版掲載「赤い輪」(モノクロページ) 巻頭論文 (三木多聞) そのほか出品作家：井上有一「猪」篠田桃紅「風」オノサト・トシノブ「作品」ほか 全92点
書籍 (資料集)	日本・西洋の美術	左無線綴じ 定価420円	開隆堂 35ページ 17. 現代の造形 (1) 一洋画一 図版掲載「みづみ」1957年
カタログ	昭和の洋画 戦前の動向	左無線綴じ	京都市美術館 1974年11月3日～27日 表紙作品：国吉康雄「誰かが私のポスターを破った」 52ページ 図版掲載：「眠りの理由」のうち4点 解説：本名杉田秀夫。宮崎県生れ。大正14年日本美術学校に入学したが1年で退学。昭和初期、美術雑誌「アトリエ」「みづゑ」等に美術批評を寄稿。油絵の制作と同時に写真も手がけ、フォト・デッサン (カメラの目を通さず、いきなり印画紙の上に投光して焼きつける方法) の分野を開拓。11年新時代洋画展の同人となり、フォト・デッサン作品集「眠りの理由」を出版。12年自由美術家協会に参加。我が国における抽象画創始者の1人。戦後は版画にも意欲的な作品を発表。初期にはかったつなシュルレアリスム風な作風の油絵と幻想的な新鮮なフォト・デッサンなど多様なをもち、晩年は点描による抽象絵画に到達した。巻末に目録、展覧会内容にかかる年表。
雑誌	みづゑNo. 836 1974年	ソフトカバー	特集＝ウォーホル 瑛九のリトグラフ・作家論＝保田春彦 瑛九のリトグラフ：「涯しなき世界への飛躍」田中邦三 作品掲載：カラー「拡声器」1957年、「シルク」※シルクの原種1957年、モノクロ「指」1957年、「ともじび」1957年、「夜の舞踏会」1957年、「水車」1957年、「航海」1957年、「風が吹きはじめる」1957年、「日曜日」1957年、「渡り鳥」1957年、「林の会話」1956年、「考えるサギ」1957年、「旅人」1957年

種類	タイトル他	形状、そのほか	内容
書籍	瀧口修造 オマーージュ瀧口修造展	ハترون紙カバーあり 有線綴じ 右開き	第5回オマーージュ瀧口修造展として佐谷画廊(東京都)が行った作品展のカタログ。「瀧口修造展に寄せて」武満徹「私も描く」「口上」瀧口修造 その他瀧口修造自身の作品(デカルコマニーなど)掲載あり。巻末の付記(オマーージュ瀧口修造展の記録)第2回に瑛丸も参加した『スフィンクス』の記録と瑛丸の名前掲載 1985年7月8日発行
書籍	富松良夫・作品 詩・ノート(自昭和4年～至昭和6年)より 詩集No.4	汚れあり 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「森の小径」宮崎出身の詩人・富松良夫氏の未発表作品を弟の昇(元助役)氏が編集し、出版したもの。巻末の後書きにて黒木淳吉氏が説明をしている。発行:龍舌蘭社 印刷は本多企画(高岡) 昭和63年(1988年)発行 非売品
書籍	富松良夫・作品 詩・ノート(昭和6年秋)より 詩集No.2	汚れあり 2つ折り右綴じ中央2箇所ホチキス止め	表紙瑛丸フォト・デッサン「二人」あとがき:富松昇 昭和5年前後に書いた「詩・ノート」が5冊あり、それから既刊の作品集を作った。新しく発見したノートにより新たに作品集を出版した。表紙を飾る瑛丸の作品はミヤ子夫人提供。発行:龍舌蘭社 印刷は龍舌社 昭和61年(1986年)発行 非売品
書籍	富松良夫 創作集 第7集	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「光」詩集ではなく、富松良夫の詩以外の仕事を掲載している。戯曲、エッセイ、小説、放送劇、市歌・校歌(主に都城) 発行:龍舌蘭社 印刷は龍舌社 昭和58年(1983年)発行
書籍	詩集・星座 富松良夫 富松良夫作品集 第3集	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「散歩」あとがき:黒木清次 表紙の版画は富松兄弟と親交のあった瑛丸の作品である。発行:龍舌蘭社 印刷:龍舌社 昭和54年(1979年)発行
書籍	富松良夫・作品 詩・ノート(昭和5年以前)より 詩集No.5	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「鶴」[杉田都様]あて「謹呈 富松昇」のスリッ入り あとがき:黒木淳吉 亡くなって35年目になること、詩集としては最終巻になることが書いてある。表紙絵についてはいつもながら都夫人の好意によると記載あり。発行:龍舌蘭社 印刷:本多企画 平成元年十一月
書籍	詩人・富松良夫	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「線の乱舞」作品について(中村地平ほか)、追想(中村地平、末原晴人、黒木清次、本多利通ほか)136ページに詩とエッセイ集「黙示」についての紹介 昭和33年9月30日発行 装画:瑛丸 ※「黙示」刊行に当たって瑛丸(宮崎出身の前衛画家・昭和33年3月10日没とある)に表紙(フォトデッサン1点)、普及版(デッサン2点)、限定版(エッチング2点)計5点の作品を制作し、提供してもらった。限定版に収められたエッチング200枚は瑛丸の自刷りになるもので、瑛丸の晩年の作品で瑛丸銅版画集(全五巻)の目録の最後に記録されている。その折瑛丸より寄せられた書物を原文のまま記載する。瑛丸からの手紙:昭和33年4月23日付け、昭和33年6月10日付け、昭和33年7月28日付け、昭和33年9月28日付け 発行:龍舌蘭社 印刷社:龍舌社 昭和59年(1984年)11月9日
書籍	詩・無題 富松良夫 富松良夫作品集 第1集	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「林の目」装画:瑛丸銅版画「鳥」※いずれの作品も南天子画廊から1969年出版された瑛丸原作銅版画集(作品50点・池田刷り・監修)のうちの2点 発行:龍舌蘭社 印刷:龍舌社 昭和52年(1977年)11月9日
書籍	詩・短歌・俳句集 枯野 富松良夫 富松良夫作品集 第4集	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「日曜日」あとがき:黒木清次 表紙絵は都夫人のご厚意と記載あり。「謹呈 富松昇」のスリッあり。発行:龍舌蘭社 印刷:龍舌社 昭和55年(1980年)11月9日
書籍	エッセイ集 1 富松良夫 富松良夫作品集 第5集	汚れあり ソフトカバー折り返しあり、右綴じ 中2箇所ホチキス止め 背あり	表紙瑛丸銅版画(タイトル記載なし)あとがき:黒木清次 毎年敬愛と追悼の心を込めて令弟昇氏が発行している。表紙の版画は良夫・昇兄弟と親交のあった画家・瑛丸の作品である。発行:龍舌蘭社 印刷:龍舌社 昭和56年(1981年)11月9日
ファイル	谷口邸	コクヨB4ファイル	家屋被写見取図 写真説明表(建物の種類 木造平屋建 経過年数不詳) ポケットアルバム台紙に測量写真
書籍	詩・短歌・俳句集 枯野 富松良夫 富松良夫作品集 第4集	汚れあり ソフトカバー 右綴じ 背あり	表紙瑛丸銅版画「日曜日」あとがき:黒木清次 表紙絵は都夫人のご厚意と記載。「謹呈 富松昇」のスリッあり。発行:龍舌蘭社 印刷:龍舌社 昭和55年(1980年)11月9日 ※同じものがあと1冊ある。こちらのほうが汚れ(黄変等)がひどい。
書籍	歌集 宇宙塵 加藤克巳	汚れあり ソフトカバー折り返しあり、右綴じ 中2箇所ホチキス止め 背あり	奥付に限定50部の内30番(30は赤で手書き)とあり、定価1000円(1956年当時)。著者:加藤克巳 発行者:伊達得夫 発行所:書肆 ユリイカ あとがき:加藤克巳 瑛丸氏のあのフォトデッサンといふもの不思議な魅力にひきつけられたのは、昭和12年頃であったらうか。此のたび、その瑛丸氏の最近作を以てカバーならびに口絵を飾りえたことは、ばくにとつて何よりの喜びである。それに特製本にはエッチングのオリジナルを二葉までも附すことが出来たといふことは、おそらく歌集でははじめてのことだらうと思ふ。外国では詩集に画家の監筆を挿入することは、はやくから行はれて来たのだが、この企てを積極的にすすめて実行に移していただいた瑛丸氏に、日本の前衛絵画のすぐれた先駆者の一人で、いまは日本よりむしろ外国に於て高名な世界的芸術家である。(あとがきの末尾の部分の部分を次のように訂正します 外国では詩集に画家の直筆を挿入することははやくから行はれて来たのだが、此の企てを積極的にすすめて実行に移していただいた瑛丸氏に、心から感謝したい。いふまでもなく瑛丸氏は 日本の前衛絵画のすぐれた先駆者の一人で、いまは日本よりむしろ外国に於て高名な世界的芸術家である。と書かれた紙片がはさんであった。) 巻頭の白いページに直筆で「雁来紅燃えのきはまり地獄よりわななく聲のまっぴるまなり 克巳」と書いてある。
書籍	2000 みやざきの文学	財団法人宮崎県芸術文化協会 定価1500円+税 ハードカバー カバー付(カバーに瑛丸の作品画像)本体表紙には画像なし	表紙瑛丸油彩「飛びちる花びら」(部分)宮崎県立美術館所蔵 随筆部門、詩部門、短歌部門、俳句部門、川柳部門、小説部門あり。
書籍	1979 宮崎県文化年鑑	宮崎県芸術文化団体連合会 ハードカバー カバー付	表紙瑛丸フォトデッサン「プロフィール」 「郷土作家論-ふるさと文化を築いた人たち」の中に「塩月桃雨讃歌」(津田雄一郎)「中村地平追悼小文」(黒木淳吉)「瑛丸-現代美術の父」(鈴木素直)「杉田都評伝」(山口保明)※瑛丸父 あとがき:南邦和 芸術連創立10周年記念号 発行:宮崎県芸術文化団体連合会 印刷:龍舌社
書籍	歌集 宇宙塵 加藤克巳	開閉型箱カバー付き 汚れあり 非売品限定50部の内No.2(非売品は紙に印字され貼ってある) ハードカバー 表紙布張り ワックスペーパーカバーあり	1956年7月20日発行 著者:加藤克巳 発行者:伊達得夫 発行所:書肆 ユリイカ 印字では限定50部のうち第 番としてあるが、数字は入っておらず、鉛筆で「限定50部の内No.2」とある。定価を消して上から非売品と印字された紙を貼っている。口絵に一枚、装画に四葉の銅版画挿入。いずれも向かいのページに印刷が写っている。(版画自体はきれいな状態) 間紙なし
カバー	詩集 現身 富松良夫	ハードカバー 外箱あり 表紙、背表紙には赤い用紙に印刷したタイトルを切ったものを貼っている。(外箱も同じ) 布張り。	1971年10月10日発行 限定版:定価2000円、100部の内82(黒で82と書いてある) 発行:富松昇 発行社:龍舌蘭社 印刷:宮崎印刷株式会社 瑛丸銅版画挿入(71年なのでオリジナルではなく後刷りか)「おとぎの国」「雨」の二葉。あとがき:黒木清次
書籍	姫路文学 109号	ソフトカバー	瑛丸の銅版画使用。小説:田原新(たなびき あらた)「鳥のソナタ」の中に瑛丸について調べてみると言われた作者(主人公?)が、瑛丸についてその生涯を記述したもの。参考文献としては「瑛丸伝」や「瑛丸からの手紙」(福井・木水)など。瑛丸伝には載っていない都(ミヤ子夫人)と瑛丸のやりとり(子供がいない事への不安や愚痴)などが記載されているが、小説なのでノンフィクションとは異なるのではないかと。本の状態はきれい。森啓が瑛丸やデモクラートについて話したがらないということや、妻で元デモクラート会員の泰の話も掲載。タイトルは瑛丸の版画のタイトルの1から 田原新(兵庫県の同人)
カード	林グラフィックプレス 瑛丸EROTICA1他	封筒に3枚のカード	刊行お知らせ EROTICA2枚中1枚は裏面白紙。宛名等なし。「瑛丸 EROTICA 1」「瑛丸 EROTICA 1」は瑛丸の没後遺族によって保存されていたオリジナルのエッチング原版から刷り出された。制作は1952年、収録作品は9点、別に前付に1点刷り込限定50部、全点限定番号を記し、画面下中央余白にQ.EI EROTICAの文字を浮出、用紙は岩の生漉き奉書用紙。マツ付フランス装 27cm×26cm 価格25万円)〒143東京都大田区大森北1-35-8 振替:東京3-3554番 電話03-3762-2678 林グラフィックプレス もう1枚は「5点のカラー銅版画によるオリジナル作品集 エニアグラム 中西夏之」 価格記載あり。
書籍	富松良夫・作品 詩集「寂しき候鳥」・詩集「微かなる花譜」より 詩集No.1	汚れあり 非売品 右綴じホチキス止め2箇所	表紙:デッサン あとがき:富松昇 昭和60年11月9日発行

種類	タイトル他	形状、そのほか	内容
カタログ	瑛九 フォト・デッサン展	2つ折り中央ホチキス止め2箇所 右開き	福岡市アートギャラリー 1978年9月12日～9月21日 写真掲載：アトリエの前？細江英公撮影か？「瑛九よせて」池田満寿夫（「瑛九作品展」1969年より転載） 図版掲載：「作品」「作品」「作品」「想い出」「人魚」「マヌキャン」「ささやき」「愛」「真昼の汽車」「旧友のあい」「会話」「希望」「夜」「らくがき」「夕暮れ」「バレーナ」「裸婦」「作品」「プレリユード」「自転車」「あそび」「作品」「作品」「春」「おどり」「作品」「くちびる」「指」「作品（夕暮れ）」「作品」「作品」「たたかい」「作品」「作品」「舞台の感情」「作品」「コンストラクション」「作品」「作品」「作品」「作品」「作品」「作品」 細江英公撮影によるフォト・デッサン制作過程写真 略年譜 出品目録 展覧会等 参考文献
書籍	日本の現代版画 小倉忠夫・三木多聞編著		講談社 定価4,500円 昭和56年7月15日発行 瑛九、浜口陽三、長谷川潔、北川民次、恩地幸四郎、村井正誠、棟方志功、横尾忠則、船井裕、吉原英雄、靉嘯、中林忠良、吹田文明など。
パンフレット	昭和初期洋画展	2つ折り中央2箇所ホチキス止め、左綴じ、表紙端に別の紙又は冊子が置かれていた跡あり、端は黄変、裏表紙スレ	神奈川県立近代美術館 1963年12月22日～1964年2月16日 「赤の中の白」1938年、「秋の日曜日」1943年、「女」1949年展示 「昭和初期洋画展について」 陰足鉄郎 ※「秋の日曜日」が1943年とあるが、宮崎県立美術館所蔵の物と同じであれば1925年が制作年。
カタログ	瀧口修造 夢の漂流物	2つ折り中央2箇所ホチキス止め、右綴じ 表紙に凹みキズ、スレあり 2001年	2001年7月5日～7月25日 富山県民会館美術館 協力に谷口都と記載あり。（財）富山県文化振興財団 富山県民会館美術館 編集・発行 掲載ページ：22ページ銅版画集『不安な街』より「オベラグラス」
ニュース	現代の眼 1960年5月号 66	2つ折り2枚重ね、右側に2穴あり。スレ、汚れ多数	四人の作家 未来派の回顧展 国立近代美術館ニュース 掲載作品：5ページ 「日曜日」1957年、「かぎ」1954年、「黒いリズム」1956年、「三人の乙女」1950年 「瑛九のこと」杉田都、「瑛九の芸術」オノサト・トシノブ 土曜講演：5月14日「瑛九の芸術」
書籍	わたくし美術館 第二巻		定価4,000円 1984年3月20日発行 編著 尾崎正教 藤田艶子 株式会社文化書房博文社
カタログ	The Founding and Development of Modern Photography in Japan 日本近代写真の成立と展開	平成7年開館記念展 汚れ・スレあり	東京都写真美術館 1995年1月21日～3月26日 202ページ 「作品D」1937年、203ページ「題不詳」1930年代、204ページ「無題」1936年、205ページ「コンストラクション」1936年 瑛九作品掲載。274ページに作家紹介。「日本近代写真の成立と展開 意識と表現」（岡塚章子）の中に瑛九に関する記述あり14ページ。北尾淳一郎の写真もあり、「大佐豊春の像」など3点掲載。
カタログ	瑛九とデモクラート展		1973年8月31日～9月16日 梅田近代美術館
書籍	ONOSATO	有線右綴じ 紙カバー＆ワックスーパーカバー（2重）	画集 発行南画廊（東京都中央区） 印刷：光村原色版印刷所、ゼネラル印刷株式会社 製本所：株式会社大完堂 1964年発行 「私のかたち」オノサト・トシノブ 「オノサト・トシノブ」久保良次郎 「画家の時刻のかたち」瀧口修造 オノサト年譜 作品14点掲載
記録集	現代美術の手法⑥「光とその表現」展	2つ折り左綴じ2箇所ホチキス止め	練馬区立美術館 2001年8月19日～9月24日 瑛九の展示あり。図録とは別に展示風景、新作、インスタレーションを記録したものの。展示室IIのコーナー展示として瑛九のコーナーがあり、その写真が掲載されている。制作：光村印刷株式会社
カタログ	明治大正昭和 名作美術展図録	変形版、左側ホチキス2箇所どめ、表紙くるみ	昭和47年開催分 北九州市立八幡美術館（9/10-24）、長崎県立美術館（10/1-15）、宮崎県総合博物館（10/22-11/5）、岡山県総合文化センター（11/15-26） 日本画：狩野芳崖「山水」など40点 洋画：高橋由一「枕橋」、瑛九「ブーケ（花束）」など35点 彫刻：荻原守衛「女の胴」など13点、工芸：板谷波山など13点 図版あり。モノクロ。出品作家小伝あり。近代日本画の展開、日本近代洋画の系譜の図あり。巻末に「明治・大正・昭和の美術」と題し、解説があり、「純粋抽象を推進した吉原治良、瑛九など前衛美術運動も興り」と言及されている。
パンフレット	現代美術の手法⑥「光とその表現」展	左有線綴じ、折り返しなし	練馬区立美術館 2001年8月19日～9月24日 3冊 巻頭：「光」とその表現—現代美術における光の問題：横山勝彦 5ページに瑛九について言及あり 作品掲載：10-11ページ「宇宙」1959年（油彩） 埼玉近美 10ページ「希望」1951年、「作品（32）」1952-53年、「作品（40）」1936年、「作品（41）」1939年、「作品（45）」不明、「作品（46）」不明、「作品（51）」不明、「作品（62）」不明※埼玉近美 12ページ「作品」1958年（油彩）東京都現美 13ページ「雲」1959年（油彩） 埼玉近美 65-70ページ瑛九年譜及び展覧会歴（「女」1949年油彩・高松市美「芽」1954年油彩・宮崎県美「カオス」1957年油彩・東京都現美「真昼」1958年油彩「れいめい」1957年油彩・国立近美「旅人」1957年リトグラフ「ひまわり」1955年エッチング） 謝辞に谷口都あり 写真は掲載されているが提供に宮崎県美の名前なし。
カタログ	写真と絵画 その相似と相違	左有線綴じ、折り返しあり、のり付け	東京都美術館 1978年10月7日～12月3日 転載：97-99ページ「フォト・デッサン 印画紙を使うデッサン」瑛九（『アトリエ』1955年2月号） 作品掲載：66ページ「鼻高プロフィール」1950年、「裸婦」1950年、67ページ「おんどり」1950年、「散歩」1950年、「芝居」1950年、68ページ「しゃがんで」1951年、「踊り子」1952年、69ページ「無題」1951年、「乱舞」1951年、70ページ「庭」1951年、「光と陰」1952年、「無題」1951年 「写真の展開と画家の写真」のコーナーで長谷川三郎の撮った写真の後に掲載 ※袋付き
小冊子	プリントアート 第14号	表紙：吉田克朗 1974年1月25日発行 発行＝株式会社プリントアートセンター 頒価300円	瑛九—1974（特集） 村松寛「瑛九とデモクラート」岡田隆彦「瑛九・その一」酒井忠康「瑛九を訪ねて」瑛九年譜・資料 作品掲載「狩」リトグラフ1957年 「指のたわむれ」カラージュ1936年 「指」1952年「少女B」1952年「光と線」1956年「鍵」1954年「家族A」1957年エッチング 「光」1954年「森の精」1958年 「想い出」フォトデッサン1950年 「遊園地」フォトデッサン1954年 写真「アトリエの瑛九」1952年 「旅人」リトグラフ1957年 「赤い鳥」リトグラフ1954年 そのほか（掲載作家 坂本好一 泉茂 田名網歌一 森野真弓（執筆 柏原つとむ 米倉守 池田満寿夫 牛久保公典 野村太郎 高橋亨）
書籍	詩集・現身 富松良夫	普及版 ハードカバー 汚れ・シミ多数 有線綴じ 定価1,000円	1971年10月10日発行 普及版 表紙：フォトデッサン（タイトル記載なし） 裏表紙：ペンデッサン（タイトル等記載なし） 装画：銅版画（タイトル記載なし、鳥の絵） あとがき：黒木清次 発行所：能舌蘭社 印刷社：宮崎印刷株式会社 発行者：富松昇
クリアフォルダー	マンモス製クリアフォルダー ふせん「昨年の夏に開催したアートにであう夏シリーズの第1回展の資料です」とある		川越画廊（デモクラートの作家から 瑛九・池田満寿夫・靉嘯三人展 1999年11月16日～28日）ハガキ、福岡県立美術館展覧会案内2000年4月～2001年3月（2冊）、平成12年度企画展開催要項「アートにであう夏 Vol.2 瑛九のヒ・ミ・ツ」A4プリント、福岡県立美術館封筒、福岡県立美術館「〇△□のおしゃべり」リーフレット、宇治山哲平の〇△□ランド）チラシ、福岡県立美術館ニュース「TOP LIGHT」1999年53号
カタログ	長谷川三郎とその時代	有線綴じ 左綴じ 見返しあり	1988年6月18日～7月24日 下関市立美術館 176ページ（目録） 作品掲載92-95ページ「街」油彩1947年、「出発」油彩1949年、「小さな生活」油彩1950年※、「みづらみ」油彩1957年※、「夜の夢」油彩1957年、「作品（レウス）」フォトデッサン1936年、「作品（2）」フォトカラージュ1937年、「作品（1）」フォトカラージュ1939年 ※はカラー掲載 157ページに作家略歴、161ページ自由美術家協会展覧資料
書籍	わたくし美術館 第三巻	ハードカバー、カバー下布張り 金箔押し文字、左綴じ	定価4,000円 1987年6月30日発行 尾崎正教編著 株式会社文化書房博文社発行
フォルダー	切手帳	ポケット式切手アルバム	大正～昭和70年代くらいまでの未使用&使用済み切手 見返り美人、月に雁（いずれも未使用）あり。切手趣味週間などシリーズ物や上皇夫妻の結婚記念切手もあり とりあえず空いている場所に入れていったようで順番などはバラバラ。
冊子	目でみるふるさと さいたまグラフ	2つ折り中央ホチキス止め2箇所 左開き	1984年4月 埼玉グラフ4月号 定価500円 瑛九「雲」表紙 8ページに「今月の表紙」で解説記事あり。埼玉県立近代美術館蔵
版画特典	瑛九画集の特典版画（特別限定版）		靉嘯、瑛九、細江、難波田 HC
鏡	「お化粧」のモデルとなった鏡		鏡が落ちる。裏面透明カバー黄変、カバー汚き。
冊子裏	瑛九が存命の頃に使用していたもの		五徳、鉄瓶、灰もセット（アトリエにあったもの）
カタログ	戦後美術のクロニクル展	2つ折り、中央ホチキス止め2箇所 制作：大塚巧藝社	1971年4月3日～5月16日 神奈川県立近代美術館（鎌倉） 巻頭論文：「昭和期美術の展開について」匠秀夫※途中瑛九の名前も出て来る。 32「湖」91×116.5（1957年） 図版掲載あり。（当館所蔵の作品だが、当時は個人蔵）